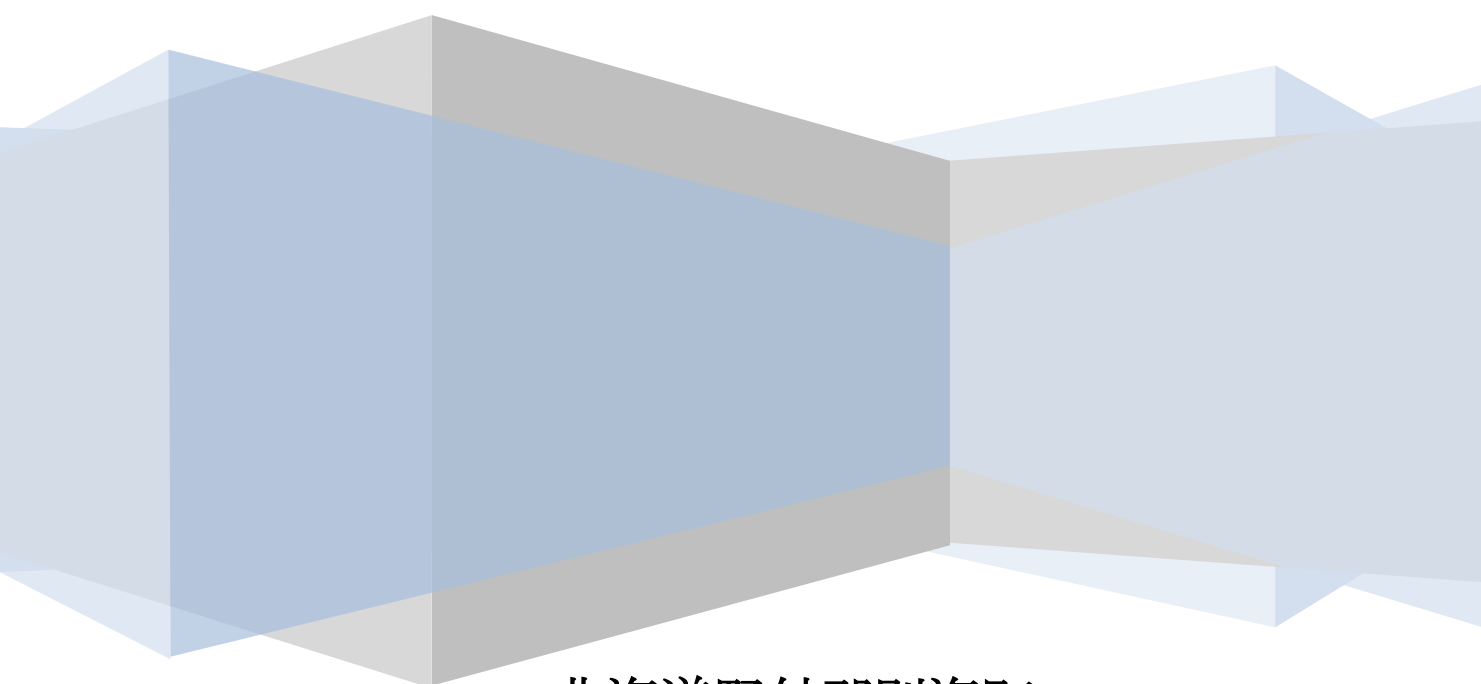


矢臼別演習場周辺

まちづくり構想

(基本構想)



北海道野付郡別海町

【目次】

1	矢臼別演習場周辺まちづくり構想の目的と位置づけ	- 2 -
1-1	まちづくり構想の背景	- 2 -
1-2	まちづくり構想の目的	- 3 -
1-3	まちづくり構想の対象エリア	- 3 -
2	別海町及び別海地区の概況	- 4 -
2-1	別海町の概況	- 4 -
(1)	位置・地勢	- 4 -
(2)	別海町の歴史	- 4 -
(3)	気候とその特徴	- 5 -
(4)	人口、世帯数	- 7 -
3	防衛関連施設の概況	- 16 -
3-1	矢臼別演習場の状況	- 16 -
3-2	自衛隊員等と町民の交流・協力	- 17 -
4	上位計画等について	- 21 -
4-1	第6次別海町総合計画	- 21 -
4-2	別海町市街地活性化計画(別海地区)	- 23 -
4-3	別海町防災計画	- 27 -
5	矢臼別演習場周辺まちづくり構想(基本構想)策定の経緯	- 29 -
5-1	まちづくり構想策定の進め方	- 29 -
5-2	まちづくり構想住民懇話会の実施状況	- 30 -
6	矢臼別演習場周辺まちづくり構想対象エリアについて	- 31 -
6-1	まちづくり構想対象エリアの現状	- 31 -
6-2	構想対象エリアの課題	- 34 -
7	まちづくり構想(基本構想)について	- 35 -
7-1	まちづくり構想における視点	- 35 -
7-2	まちづくり構想における基本理念等	- 36 -
(1)	基本理念	- 36 -
(2)	基本方針	- 36 -
(3)	目指すべきまちの姿	- 37 -
(4)	基本方針を具現化する手だてのイメージ	- 38 -

はじめに

本町では、平成21年3月に「笑顔あふれる豊かさ実感のまち べっかい」を町の将来像とする「第6次別海町総合計画」を策定し、町民の皆様の質の高い生活と持続可能な地域社会の確保を実現するため、「人を育てる学びのまち」や「快適で安全なまち」等を施策の大綱に据え、市街地整備や防災対策の推進に資するまちづくりに取り組んでまいりました。

この度、国の補助事業である「まちづくり構想策定支援事業」の採択を受けたことから、これまで別海地区市街地の活性化及び安心安全な地域社会の実現を目指し進めておりました(仮称)生涯学習センターや防災拠点施設等の整備を含むまちづくりの具体策として、3か年を用い「矢臼別演習場周辺まちづくり構想」を策定することといたしました。

この補助事業は、構想名の冒頭にありますとおり、国内最大規模の演習場である「矢臼別演習場」の運用によって、周辺地域の住民の生活や事業活動が著しく阻害されている状況において、防衛施設が存在するという地域の特徴を踏まえ、自衛隊員等と住民との文化の交流又は防災等の活動促進を企図したまちづくりを行う場合に、国がその費用の一部を補助し、防衛施設の存在に対する住民の理解を深めることで、防衛施設とその周辺地域との調和を図ることを目的に実施するものです。

1年目となる平成27年度の基本構想策定にあたっては、町内関係団体等からの代表者やアンケート調査の回答者で構成する「矢臼別演習場周辺まちづくり構想住民懇話会」をはじめ、自治基本条例に基づき様々な場面で町民の皆様から自由な発想で、広くまちづくりについてご議論いただきましたものを取りまとめたところです。

今後は、より具体的な方策となる「基本計画」、「実施計画」の策定が平成29年度まで続くこととなりますが、町民一人ひとりのより良い生活環境を目指し、住み続けられる別海町の実現に向けて取り組んでまいりますので、引き続き、皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

別海町長 水沼 猛

1 矢臼別演習場周辺まちづくり構想の目的と位置づけ

1-1 まちづくり構想の背景

我が国では、少子化、高齢化の進展等による災害弱者の増加に加え、人口減少社会に完全に突入するなど、社会環境が従来と大きく変わりつつあります。

日本の食糧基地である北海道の中で、道内生乳生産量 3,810,742t の内、およそ 8 分の 1 となる 460,643t を占める本町においても、少子高齢化における労働人口の減少や、環太平洋戦略的経済連携協定(略称、T P P)の大筋合意における影響は、避けることの難しい大きな課題となっています。

これら本町における課題については、様々な要因によるマイナスの影響が考えられますが、そのひとつとして、昭和 38 年から本格的な供用開始となった矢臼別演習場及び昭和 40 年に発足した別海駐屯地の防衛関連施設の存在は、住民生活に有形・無形な影響を与えています。

中でも、約 168km²も及ぶ国内最大規模の面積を有する矢臼別演習場は、その広大な敷地を生かした師団規模、人員にして 3 千名以上の隊員による総合戦闘力演習が 1 か月以上にわたり実施されるなど、年間平均 300 日以上、延べ 26 万人以上の隊員による演習が行なわれています。

加えて、沖縄県道 104 号線越え実弾射撃訓練の分散・実施の本土移転により、米海兵隊による訓練も、平成 9 年度から実施されています。

このように矢臼別演習場では、他の演習場では不可能な大型重火砲による実弾射撃訓練が年間を通し行なわれていることから、演習により発生する各種の障害を受ける周辺住民は、長年にわたる騒音・振動に耐えることの困難性を訴えるなど、将来への生活や酪農経営に対する不安が高まっており、町民生活の安定に資する対策についても求められています。

また、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策推進地域に指定されている本町では、平成 5 年に釧路沖地震、平成 6 年に北海道東方沖地震、平成 16 年には根室半島沖地震など、ここ 30 年の間でも大規模な地震災害に数多く見舞われています。

近年では、爆弾低気圧と呼ばれる急速に発達する温帯低気圧による高潮や暴風雪などの気象災害も多発しており、海岸部の被害だけではなく、内陸部の交通網を寸断するなど災害発生時におけるライフラインの維持が大きな課題となっています。

これら種々の災害と防衛施設の存在によって生じる町民への影響を最小限に抑え、人口減少・少子高齢化する本町にとって望ましい生活環境を構築するためには、町内における様々な要素を結び付けるまちづくりが必要となります。

その中でも、年間延べ 26 万人以上の矢臼別演習場を利用する自衛隊員等と別海駐屯地に勤務する自衛隊員は、単なる消費者や転勤族としてだけでなく、それぞれが持つ専門性や個性を生かした交流人口としても地域に取り込むことが、今後のまちづくりにおいて、これまで以上に求められています。

1-2 まちづくり構想の目的

本町に所在する防衛施設及び居住する自衛隊員等との関連性を活かし、町民にとって安心安全な地域社会の構築と質の高い生活の維持を目指し、市街地活性化につなげることを目的とします。

特に、市街地の活性化に大きく係る内容である中小企業の振興や、町民の自主的な地域活動に必要な社会教育の充実、防災体制の整備に対して、包括的な計画策定を行い、整合性の取れた事業の進捗に取り組みます。

1-3 まちづくり構想の対象エリア

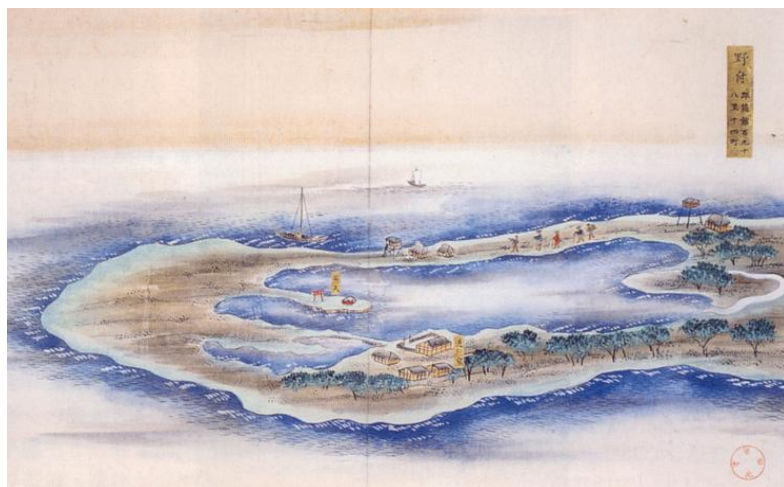
本町は、全国の市町村として9番目(平成26年10月現在)の面積を有し、中央部に位置する別海地区、別海駐屯地が所在する西部内陸側の西春別駅前地区、東部海岸側の尾岱沼地区と、市街地が3地区に分散していることが大きな特性となっています。

このような広大かつ散居型の構造により、中心的市街地である別海地区にあっても、まちの中心地としての商工業が集積した「にぎわい」や、文化的な「高まり」が実感できない状況にあることに加え、老朽化が進み、防災機能が薄れた状態のまま供与を続けている公共施設がいくつか存在します。

これらの状況を改善するため、矢臼別演習場に隣接し、町内で最も多くの商工業者と公共施設が集積している別海地区について、更なる交流人口の増加を図るとともに、防災施設の充実・強化による防災対応力の強靱化を進めるため、当該地区をまちづくり構想のエリアに設定することとします。

本町の近代開拓期としては、江戸時代後期に野付半島及びその周辺に漁場が開設されたことにはじまり、北海道沿岸部の多くの自治体がそうであったように「鯧(にしん)漁」で栄えました。

また、オホーツク海に飛び出す形となっている野付半島は、地理的要因から知床・根室・国後・択捉方面を結ぶ港として、重要な役割を担ったとされています。



しかしながら、当時の漁場は季節労働的な就業形態であったことから、和人による定住を基礎とした地域社会の形成には至らず、別海町の原型となる地域の誕生は、150年以上過ぎた明治初期の開拓使による移民政策の実施以降となります。

明治2年、根室開拓使出張所管轄のもと西別出張所が本別海地区に開設され、移住政策の推進の本格化とともに、江戸時代後期から産業の主体であった漁業を中心とした地域に村落が形成されました。

その後の明治12年、郡区町村編成法によって、周辺の5村(別海村・平糸村・野付村・西別村・走古潭村)を統括する現行の別海町の基礎となる「別海外四ヶ村戸長役場」が設置されました。

その後、農業を中心とした開墾が本格化する明治43年からの北海道第1期拓殖計画の施行によって、農業従事者としての開拓移民の入植がはじまると、内陸部の拠点であった西別地区(現在の別海地区)が大きく発展。大正12年には、現在の別海町と同等の地域を有する別海村が誕生しました。

開拓事業による人口流入によって、内陸部を中心とした開発へと転換された結果、昭和8年には役場庁舎などの行政施設も別海地区に移転することとなり、現在の別海町の基礎が形成されました。

(3)気候とその特徴

気候は広義の太平洋岸式気候に分類されますが、緯度が高いことから東部北海道型として2月の平均最低気温は-14.5度、8月における平均最高気温も23度と冷涼な気候にあります。

一方で、他の高緯度太平洋式気候の地域に比べ、年間の降雪深度は345cmと少なく、晴天率が高いのが特徴となっています。

気象災害としては、台風や熱帯低気圧の上陸自体が他県に比べ少ないことから、件数としては多くないものの近年では、激甚災害に指定された平成18年10月7日から10日にかけて、台風16号の影響によって発生した低気圧による大雨・強風は、町内でも海岸

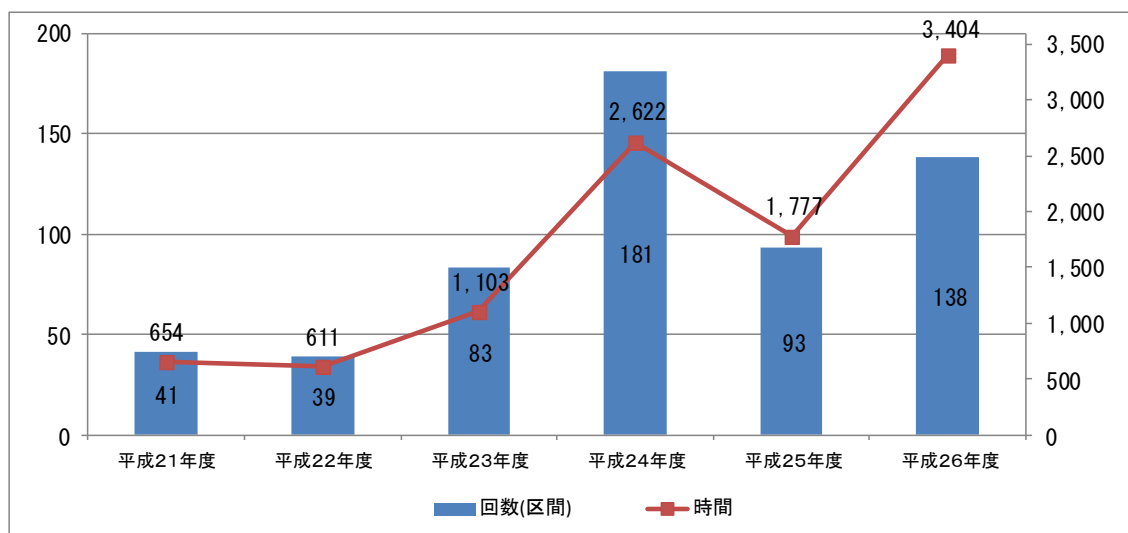
部を中心に住宅床上浸水や漁具、営農施設など601件の被害が発生しました。

また、爆弾低気圧と呼ばれる温帯低気圧は、冬季から春季においてオホーツク海上において発達する傾向があり、北海道東部の沿岸地域は雪を伴う強風や高波となることが多くあります。

近年では、平成25年3月2日から3日にかけて北海道を横断した爆弾低気圧による暴風雪によって、送電線への破損や航空機・船舶・鉄道の運休、交通障害などのライフラインへの影響も大きく、北海道東部を中心に9名の方が亡くなる被害が発生しました。



■近年の北海道内の国道通行止め状況



資料:国土交通省北海道開発局 暴風雪に伴う国道通行止め状況

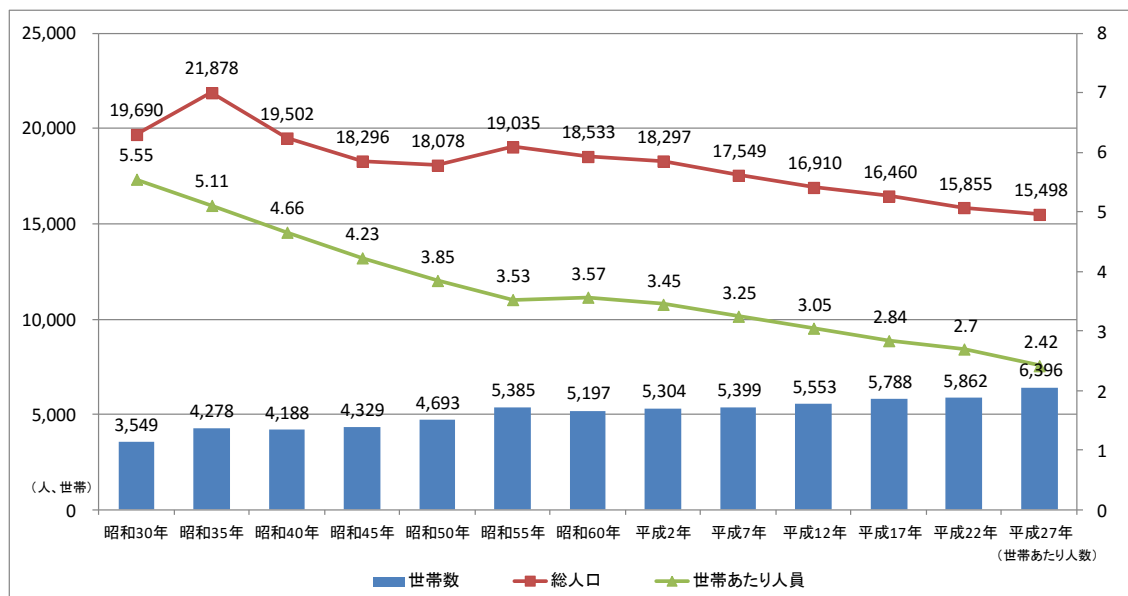
平成21年度から25年度は11月から3月まで、平成26年度は11月から2月17までの履歴

(4)人口、世帯数

国勢調査による人口は、昭和35年の21,878人をピークに減少傾向に転じ、平成27年10月末現在の住民基本台帳人口は15,498人まで減少しています。

一方で、世帯数は増加傾向にあり、1世帯あたり人員は、昭和30年の5.55人から平成27年には2.42人まで減少し、世帯規模の縮小による核家族化が進行しています。

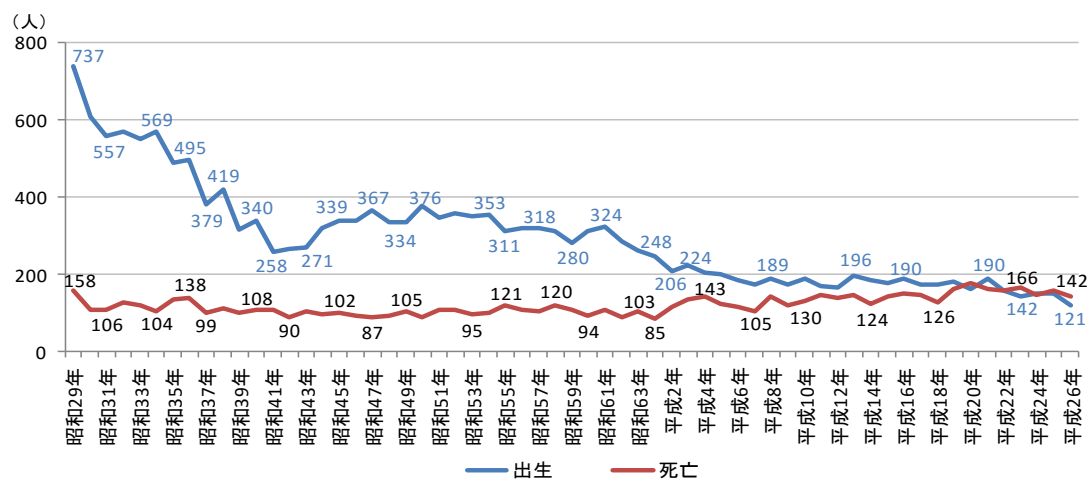
■人口と世帯数の推移



資料：平成22年まで 国勢調査、平成27年 住民基本台帳（10月末現在）

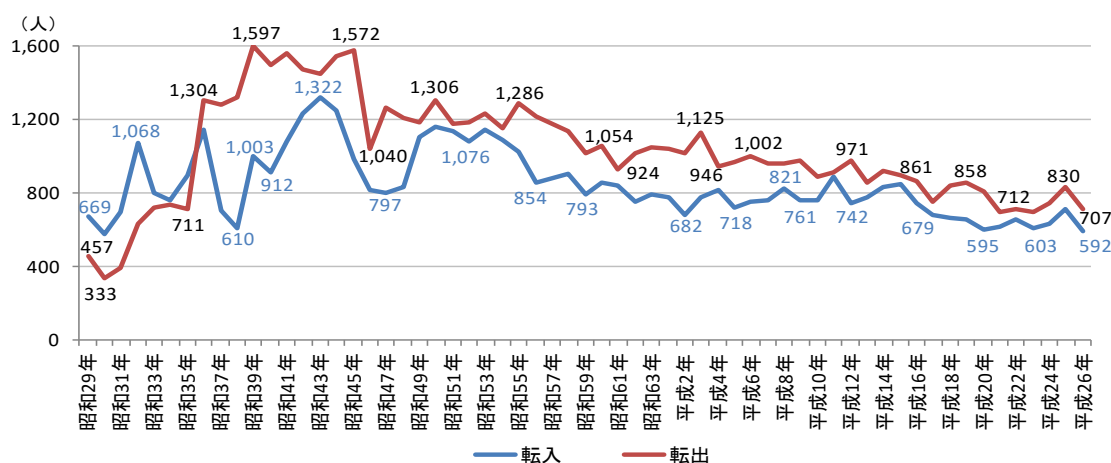
人口減少の要因としては、出生や死亡による自然要因と転入や転出による社会要因を比較した結果、社会要因にあり、昭和36年以降は、転出超過の状況が続いています。

■出生や死亡による自然要因による人口増減



資料：住民基本台帳移動報告（各年12月31日現在）

■転入や転出による社会要因による人口増減

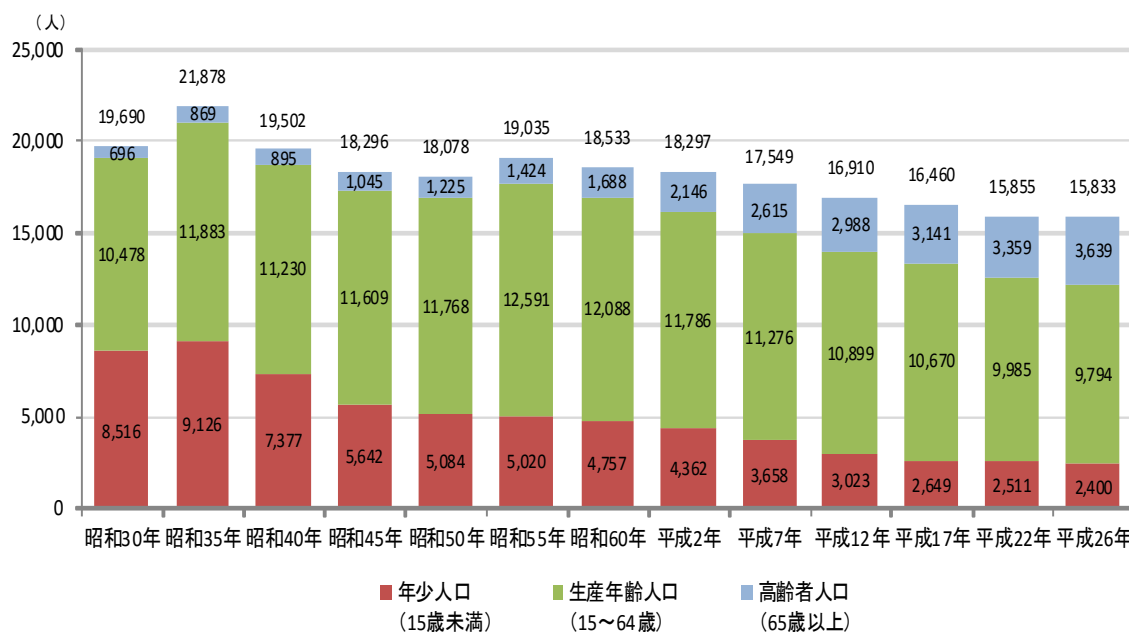


資料：住民基本台帳移動報告（各年12月31日現在）

年齢階層別の構成としては、年少人口が昭和35年から減少し、平成26年には2,400人まで減少しています。同様に、生産人口も平成26年にはピーク時と比較して約18%減少しています。

一方で、高齢人口は増加を続け、総人口に占める割合でみると平成17年には、年少人口の割合を超えて、平成26年には23.0%まで上昇しており、第1次産業を中心とする産業構造を持つ本町としては、人口だけでなく、人口構成の維持も今後の大きな課題となっています。

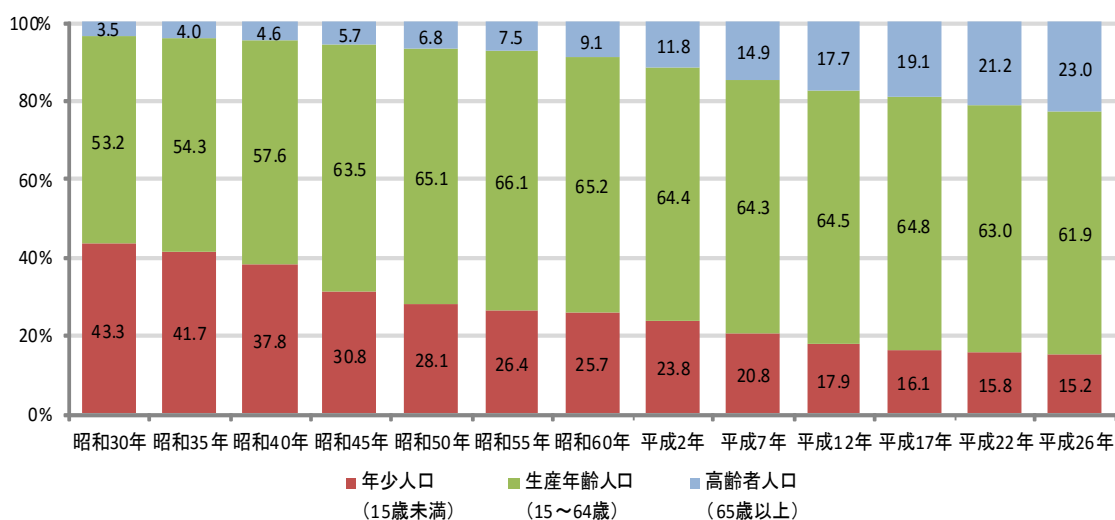
■年齢階層構成毎の人口推移



資料：平成 22 年まで：国勢調査、平成 26 年：住民基本台帳（10 月 1 日現在）

※総人口は年齢不詳を含む：昭和 50 年（1 人）、平成 2 年（3 人）

■年齢階層構成毎の人口比率



資料：平成 22 年まで 国勢調査、平成 26 年 住民基本台帳（10 月 1 日現在）

また、別海町の将来人口推計としては、別海町人口ビジョンにおいて次のとおり示されており、総人口の減少及び少子化の進展とともに、現在の一・二次産業における生産・製造力や、地域の担い手としても影響力の大きい労働年齢層の減少が懸念されます。

■推計の条件

基準人口	平成 26 年 10 月 1 日現在住民基本台帳人口
将来の生存率	「日本の将来推計人口（平成 24 年 1 月推計）」（出生中位・死亡中位仮定）から得られる全国の男女・年齢別生残率を利用。
将来の純移動率 ※ 1	平成 2 1 ～ 2 6 年に観察された市区町村別・男女年齢別純移動率が平成 27 年以降の期間についても一定とする仮定を置いた。
将来の子ども女性比※ 2	平成 2 2 年の全国の子ども女性比と各市区町村の子ども女性比との較差をとり、その値を平成 2 7 年以降平成 5 2 （2040）年まで一定として市区町村ごとに仮定値を設定。
将来の 0 ～ 4 歳性比※ 3	「日本の将来推計人口（平成 2 4 年 1 月推計）」（出生中位・死亡中位仮定）により算出された全国の平成 2 7 年以降平成 5 2 （2040）年までの 0 ～ 4 歳性比を各年次の仮定値として設定。

※1 純移動率：各年齢階級別の人口における転入出者数の割合。転入はプラス、転出はマイナスとなる。

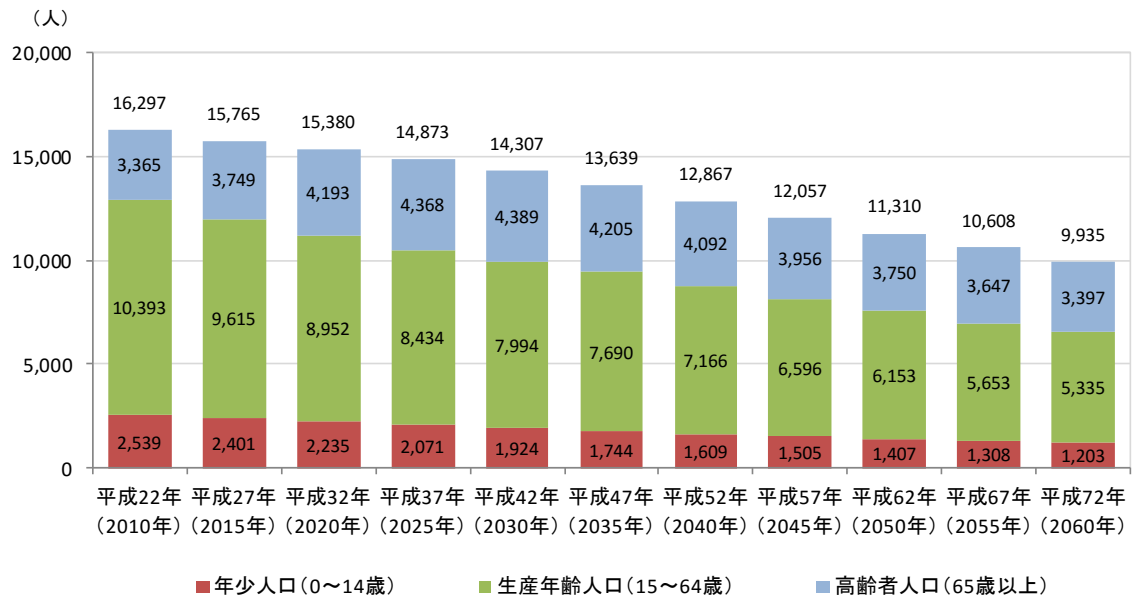
※2 子ども女性比：1 5 ～ 4 9 歳女性人口に対する 0 ～ 4 歳人口の割合。将来の出生数を算出する際に用いられる。

※3 0 ～ 4 歳性比：0 ～ 4 歳女性人口に対する 0 ～ 4 歳男性人口の割合。将来の出生における男女別人数を算出する際に用いられる。

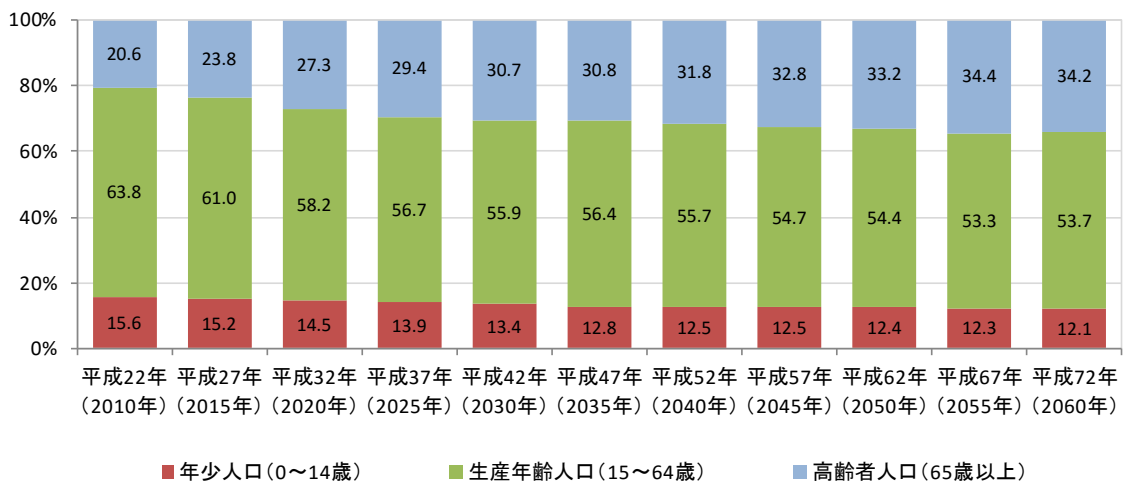
■将来人口推計（5 歳階級別）

	平成 22 年	平成 32 年 (2020 年)		平成 42 年 (2030 年)		平成 52 年 (2040 年)		平成 62 年 (2050 年)		平成 72 年 (2060 年)	
	人数	人数	H22 年比	人数	H22 年比	人数	H22 年比	人数	H22 年比	人数	H22 年比
総数	16,297	15,380	94.4%	14,307	87.8%	12,867	79.0%	11,310	69.4%	9,935	61.0%
0～4 歳	849	751	88.5%	598	70.4%	521	61.4%	459	54.1%	379	44.6%
5～9 歳	908	730	80.4%	647	71.3%	548	60.4%	477	52.5%	409	45.0%
10～14 歳	782	754	96.4%	679	86.8%	540	69.1%	471	60.2%	415	53.1%
15～19 歳	767	775	101.0%	624	81.4%	552	72.0%	468	61.0%	407	53.1%
20～24 歳	876	596	68.0%	588	67.1%	531	60.6%	422	48.2%	368	42.0%
25～29 歳	943	722	76.6%	738	78.3%	599	63.5%	532	56.4%	450	47.7%
30～34 歳	1,097	974	88.8%	695	63.4%	687	62.6%	620	56.5%	493	44.9%
35～39 歳	1,090	912	83.7%	722	66.2%	744	68.3%	602	55.2%	534	49.0%
40～44 歳	888	1,067	120.2%	935	105.3%	667	75.1%	659	74.2%	595	67.0%
45～49 歳	1,025	1,041	101.6%	881	86.0%	697	68.0%	718	70.0%	581	56.7%
50～54 歳	1,166	865	74.2%	1,041	89.3%	912	78.2%	650	55.7%	643	55.1%
55～59 歳	1,342	956	71.2%	985	73.4%	832	62.0%	655	48.8%	677	50.4%
60～64 歳	1,199	1,044	87.1%	785	65.5%	945	78.8%	827	69.0%	587	49.0%
65～69 歳	880	1,225	139.2%	874	99.3%	899	102.2%	758	86.1%	594	67.5%
70～74 歳	698	1,071	153.4%	944	135.2%	710	101.7%	854	122.3%	746	106.9%
75～79 歳	738	735	99.6%	1,058	143.4%	757	102.6%	780	105.7%	656	88.9%
80～84 歳	573	505	88.1%	822	143.5%	719	125.5%	544	94.9%	649	113.3%
85～89 歳	320	436	136.3%	457	142.8%	651	203.4%	472	147.5%	485	151.6%
90 歳以上	156	221	141.7%	234	150.0%	356	228.2%	342	219.2%	267	171.2%
0～14 歳	2,539	2,235	88.0%	1,924	75.8%	1,609	63.4%	1,407	55.4%	1,203	47.4%
15～64 歳	10,393	8,952	86.1%	7,994	76.9%	7,166	69.0%	6,153	59.2%	5,335	51.3%
65 歳以上	3,365	4,193	124.6%	4,389	130.4%	4,092	121.6%	3,750	111.4%	3,397	101.0%

■将来人口推計（年齢3区分別）



■将来人口推計（年齢3区分別割合）



また、今後の町内の人口推移を把握するため、本構想においては次の条件を設定した上で、各地区の人口推計を行ないました。

なお、各地区の人口推計値の合計が、町人口ビジョンや国立社会保障・人口問題研究所と異なる傾向となっている部分がありますが、これは算出に用いた数値や時期、手法の違いによるものです。

■本構想における人口推計の条件

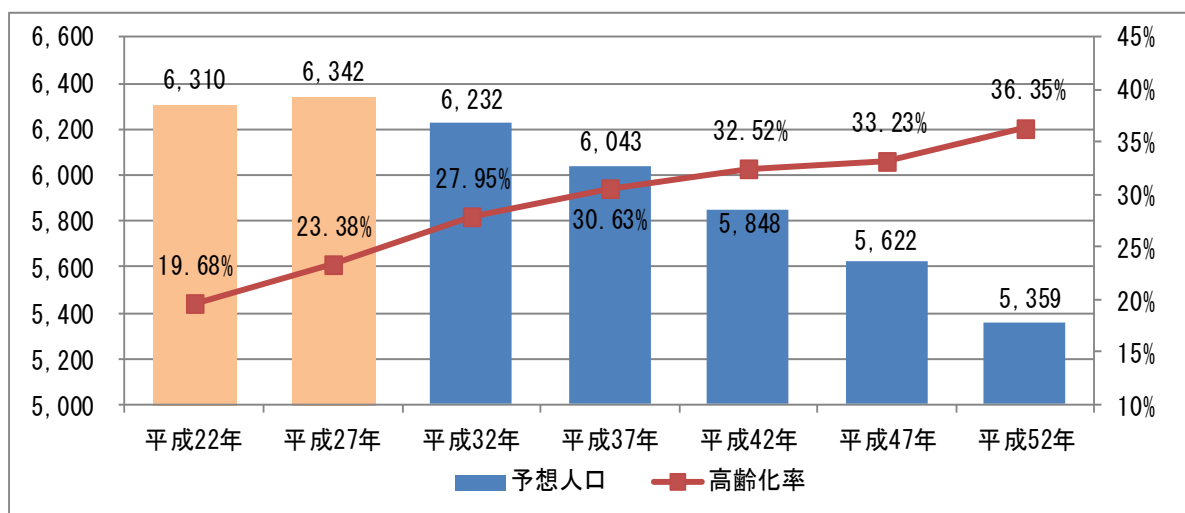
条件期間	平成17年、平成22年、平成27年の各9月末時点の住民基本台帳における掲載者数とする。
コーホート変化率	過去における動態を参考にどのように人口が変化するかを定めるコーホート変化率は、特殊状況を可能な限り除外するため、3時点における全期間の平均値を用いた。
将来の子ども女性比	将来の出生数の算定に用いる子ども女性比率は、平成27年時点での町内における15から49歳女性人口に対する0から4歳人口の割合とした。
将来の0～4歳性比	将来の出生における男女別人数の算定に用いる子ども性比率は、平成27年時点での町内における0～4歳女性人口に対する0～4歳男性人口の割合とした。
推計地区名	住所名を基本に、学校区及び地域的なつながり等を考慮した区分とした。

人口推計に用いた住民基本台帳住所別人口は、平成27年度現在ある9つの学校区を基本に地域的なまとまりを考慮し集計したものです。

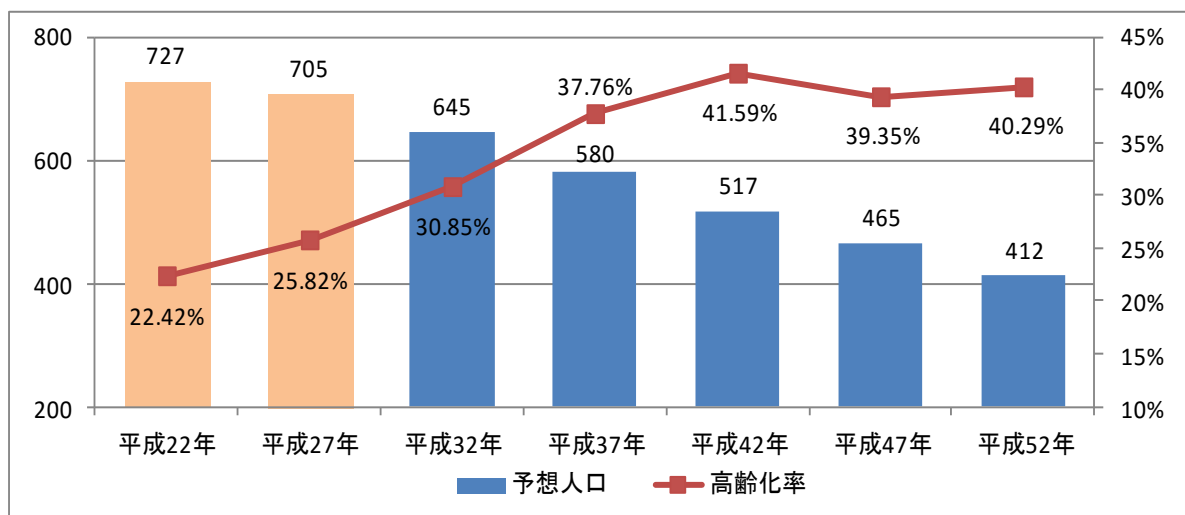
■将来人口推計に用いた地区の区分

地区名称	各地区に含まれる住所地
別海地区	別海新栄町、別海常盤町、別海宮舞町、別海西本町、別海旭町、別海寿町、別海緑町、別海鶴舞町、別海川上町、別海
中西別地区	中西別本町、中西別光町、中西別朝日町、中西別緑町、中西別
上風連地区	奥行、矢臼別、上風連
本別海地区	走古丹、本別海
中春別地区	中春別、中春別東町、中春別西町、中春別南町、豊原、美原
西春別地区	西春別、西春別昭栄町、西春別本久町、西春別宮園町、西春別清川町、西春別幸町
西春別駅前地区	大成、本別、西春別駅前寿町、西春別駅前錦町、西春別駅前栄町、西春別駅前西町、西春別駅前柏町、西春別駅前曙町、泉川
上春別地区	上春別、上春別緑町、上春別旭町、上春別南町、上春別栄町
尾岱沼地区	床丹、尾岱沼、尾岱沼潮見町、尾岱沼港町、尾岱沼岬町

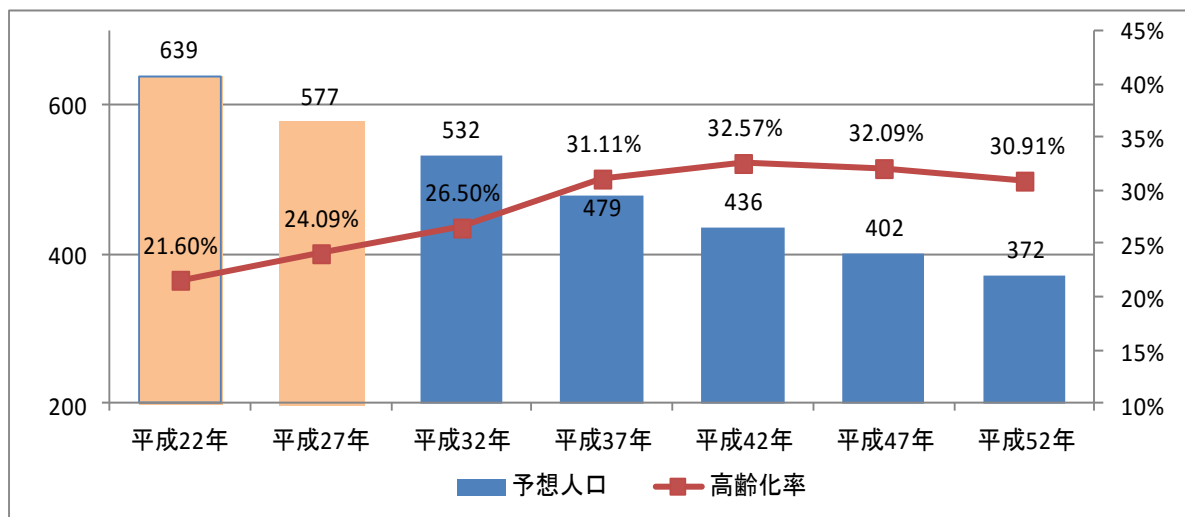
■別海地区の将来人口推計



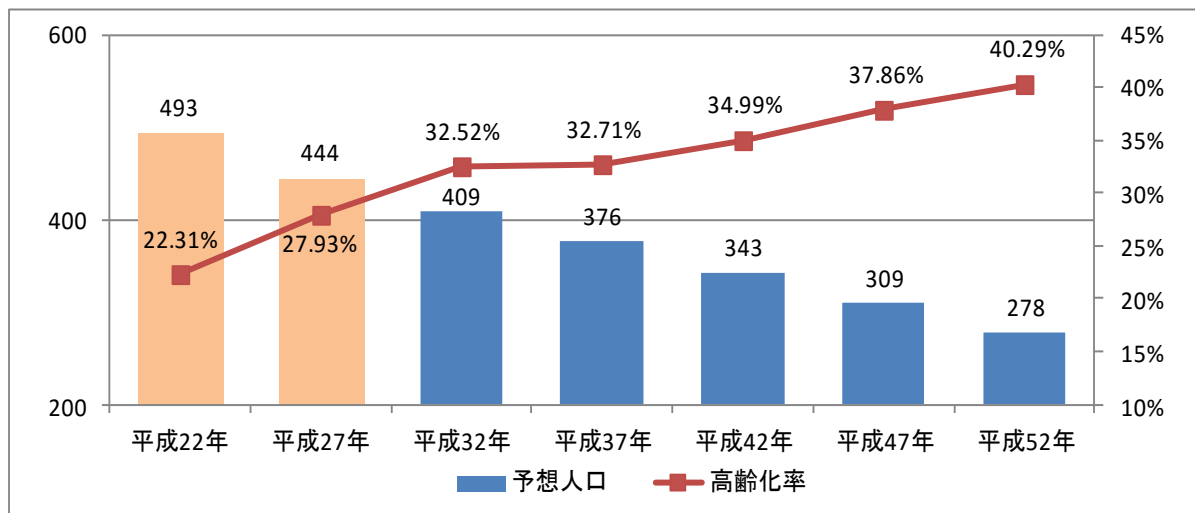
■中西別地区の将来人口推計



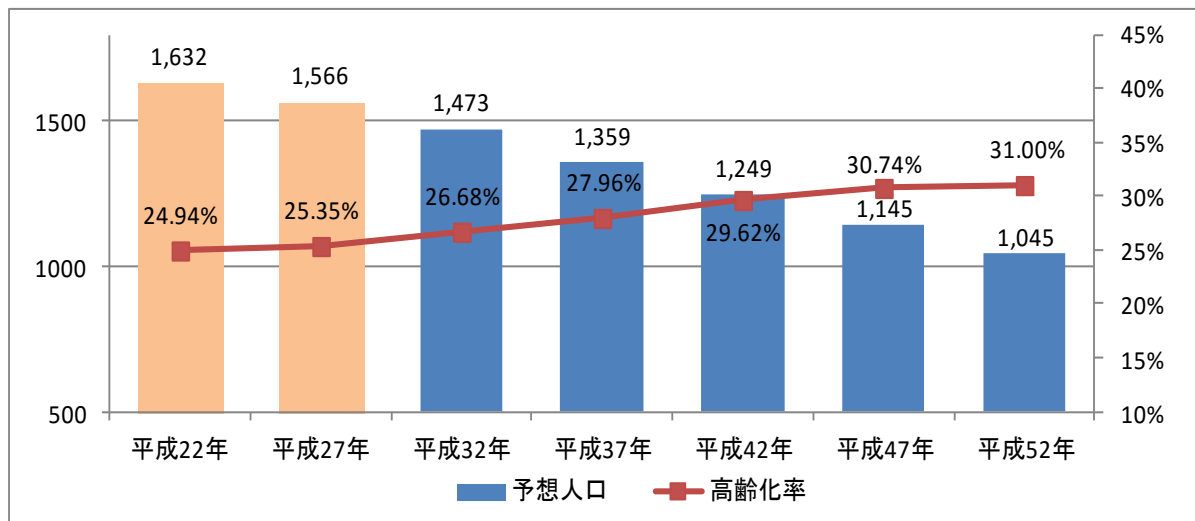
■上風連地区の将来人口推計



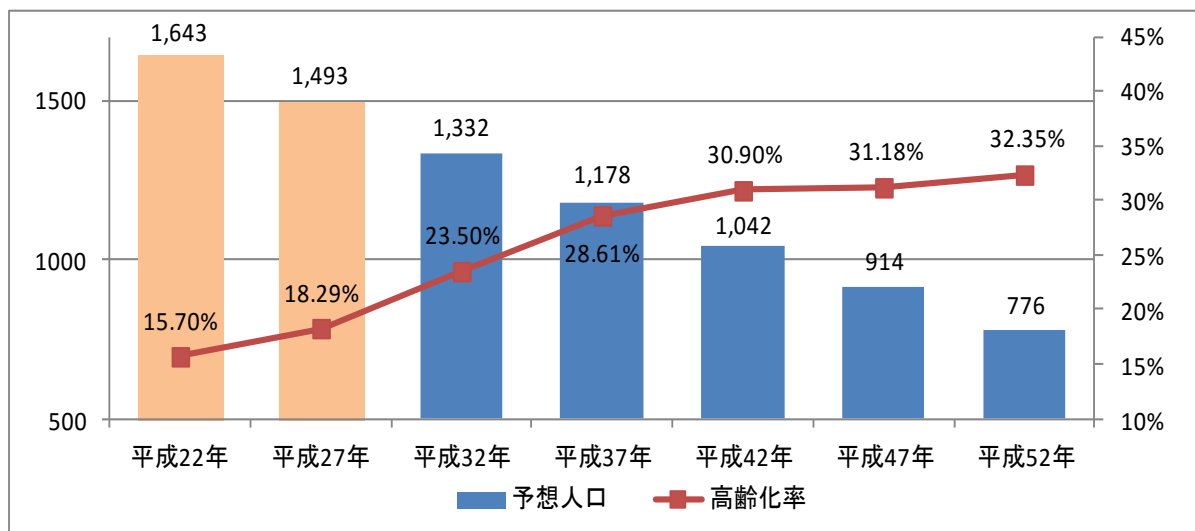
■本別海地区の将来人口推計



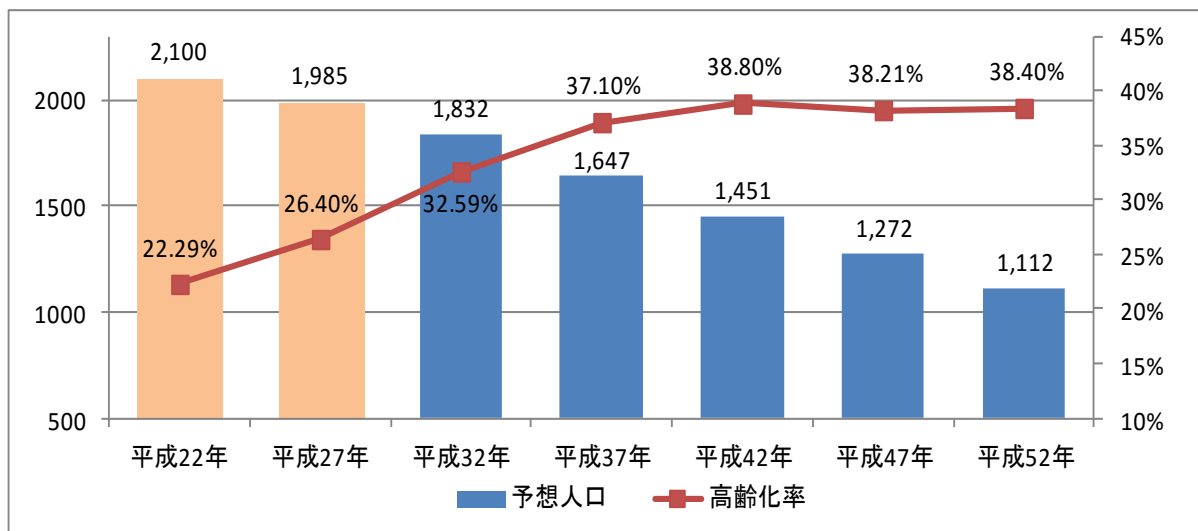
■中春別地区の将来人口推計



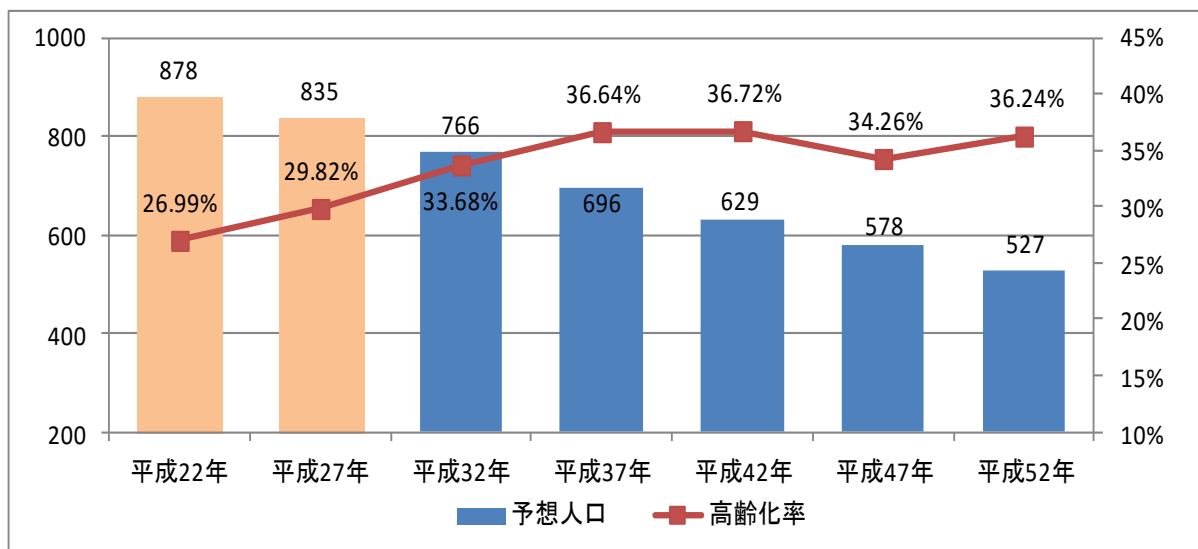
■西春別地区の将来人口推計



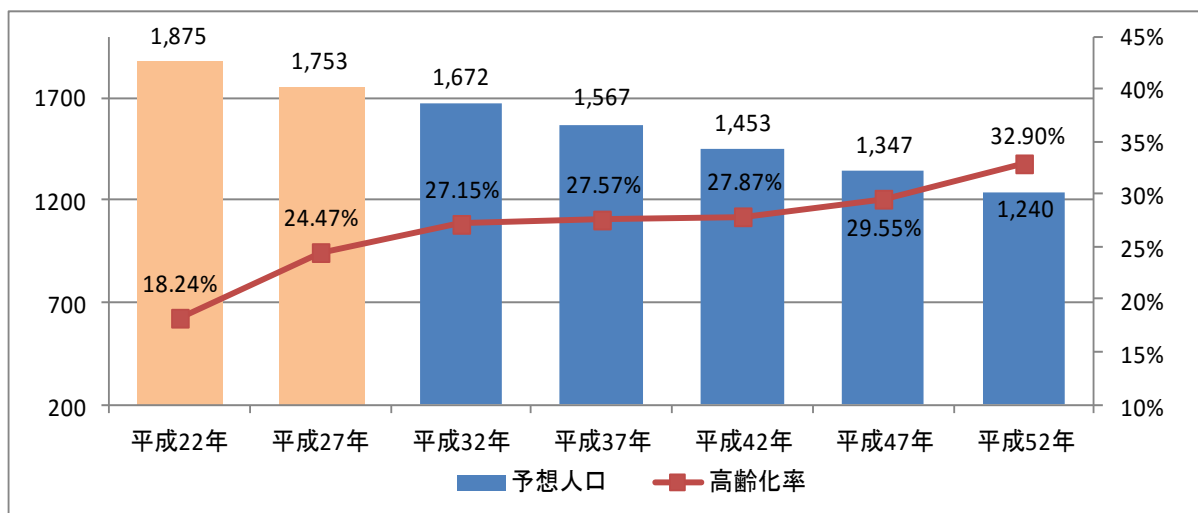
■西春別駅前地区の将来人口推計



■上春別地区の将来人口推計



■尾岱沼地区の将来人口推計



3 防衛関連施設の概況

3-1 矢臼別演習場の状況

本町には、昭和38年から供用が開始された矢臼別演習場及び昭和40年に発足した別海駐屯地の防衛関連施設が存在します。

中でも、町南部に位置し、釧路管内厚岸町・浜中町にまたがる矢臼別演習場は、東西に28km、南北に10kmあり、総面積16,771.5447haに及ぶ国内最大規模の演習場です。

広大な敷地を利用した最大射程距離18kmに及ぶ射撃訓練では、多連装ロケットによる実弾射撃訓練が可能な国内唯一の演習場となっており、その他にも203mm・155mm榴弾砲、多目的誘導弾、120mm迫撃砲、爆破薬、小火器、各種ヘリコプターによる航空機訓練など様々な内容が実施されています。

また、平成9年度からは、米海兵隊による沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の分散化による実施演習場となるなど、近年は訓練の規模や内容が多様化する状況にあります。

これらの演習は、昼夜を問わず頻繁に実施されることから、騒音や振動などの障害となり、町民生活への影響だけでなく、本町の産業の中核である畜産・酪農業への影響も大きく、これまで多くの対策が継続的に講じられています。

■ 矢臼別演習場使用状況

年 度	使用人員	使用日数	射撃日数	米海兵隊による訓練の有無
平成22年度	264千人	300日以上	120日程度	大隊規模の訓練を実施
平成23年度	241千人	300日以上	100日程度	実施なし
平成24年度	257千人	300日以上	90日程度	大隊規模の訓練を実施
平成25年度	245千人	300日以上	70日程度	大隊規模の訓練を実施
平成26年度	277千人	300日以上	90日程度	大隊規模の訓練を実施

※使用人員については、延べ人数

■ 平成26年度に実施された防衛施設周辺整備実績

道路整備事業	根室中部3号主要幹線改良舗装(2地点)
障害防止事業	矢臼別演習場土砂流出対策
農業施設整備事業	西春別地区草地造成改良実施設計
防音事業	矢臼別演習場周辺別海町立上西春別中学校防音工事
調整交付金事業	町道改良舗装・実施設計、消防車購入(基金積立)、 塵芥収集車・スクールバス・道路パトロール車、消防ポンプ車購入
調整交付金基金事業	福祉施設改築事業(中春別ふれあいセンター)、 消防団拠点整備事業(尾岱沼第3分団詰所・車庫)

また、西春別駅前地区にある別海駐屯地には、矢臼別演習場における年間26万人以上に及ぶ訓練部隊に対する管理及び駐屯地の運営、維持管理を行う業務隊などが駐屯しているほか、国内で最も東に位置する駐屯地として、偵察及び警戒を担当する第5偵察隊が駐屯しています。

3-2 自衛隊員等と町民の交流・協力

矢臼別演習場を利用する自衛隊等や別海駐屯地の自衛隊員は、本構想の対象エリアである別海地区をはじめ、別海駐屯地のある西春別駅前地区において、様々な交流事業などを実施しています。

■北部方面音楽隊 コンサートツアー2014 別海公演

陸上自衛隊北部方面音楽隊による演奏会が開催され、自衛隊協力会々員や一般町民など320名が来場しました。

町内での実施は、日程等の調整により不定期開催となっているものの、部外演奏支援として地域イベントアトラクション等での出演も多数行なわれています。

開催日 平成26年8月6日

入場者数 320名

場 所 別海町中央公民館(別海地区)
大集会室

主催 別海町自衛隊協力会



■別海駐屯地記念行事

別海駐屯地では、毎年周年記念行事が開催され、地区内外から多くの方が来場しています。平成27年度は、発足50周年にあたることから、部隊の観閲行進において、陸上自衛隊第5飛行隊のヘリコプターが列するなど例年以上の規模で開催されました。

また、児童のための特設遊具の設置や、地域名産品を使った町内飲食店からの出店など、イベントとしても盛会なものとなっています。

来場者数 830名

場 所 別海駐屯地(西春別駅前地区)



■別海町産業祭

別海駐屯地、自衛隊帯広地方協力本部 中標津地域事務所では、本町における秋季最大のイベントである産業祭に出展しています。

会場では、装備車両の展示や募集広報パンフレットの配布などを行ない、活動周知を図っています。

来場者 2日間で約2万人

開催日 毎年9月中旬の土日

場 所 別海町コミュニティーセンター(別海地区)



■別海町パイロットマラソン大会

別海駐屯地では、大会実行委員会と協定を結び大会実施時における傷病者の応急や救命措置、救急車両による医療スタッフ・傷病者の搬送などを行い、大会運営を支援しています。

支援員 隊員10名 車両3両

参加者 出場選手1,706名

開催日 毎年10月初旬

場 所 町内(主に別海・中西別地区)



■別海町ウェスタンカーニバル

別海駐屯地のある西春別駅前地区のイベント開催において、装備品である車両の展示を行ない、自衛隊への理解を促すとともに、隊員の積極的なイベント参加を促すことで、開催を後援しています。

来場者 町民を中心に約2,000名

開催日 毎年8月上旬

場 所 西春別駅前地区



■駐屯地周辺清掃活動

3等陸曹から陸曹長までの陸曹と呼ばれる自衛隊員で構成される別海駐屯地曹友会では、地域交流の一環として、年2回駐屯地周辺の清掃奉仕活動を実施し、地域環境の充実に貢献しています。

参加者 秋季実施時 126名

実施日 毎年5月、11月

場 所 別海駐屯地周辺の道路



■地域活動、サークル活動指導

別海駐屯地のある西春別駅前地区では、駐屯地隊員や自衛隊OBによる児童・生徒へのスポーツ指導が行なわれ、地域の社会教育活動が推進されています。

主なサークル指導 サッカー少年団、空手少年団等



■米海兵隊による奉仕活動

米海兵隊による奉仕活動として、町民との交流を深めることを目的に、社会福祉施設訪問等が実施されています。平成27年度は、通所介護施設を訪問し、利用者とのレクリエーションをはじめ、米海兵隊による歌や踊りが披露されました。

参加者 72名(海兵隊員25名、施設利用者24名、その他施設運営者等23名)

実施日 平成27年12月7日

場 所 デイサービスセンター(別海地区)



また、自衛隊等からの地域への協力だけでなく、地域や自治体が自衛隊に協力することで、共通の課題の解決に向けて、より具体性のある取り組みが行なうことが可能となる場合があります。

本町においては、次の取り組みが行なわれています。

■ノーザン・レスキュー2015

北部方面隊等による災害対処能力向上と即応体制の充実に目的に実施された災害対処演習に対し、本町では、市街地部と海岸地域の自治会組織が協力し、孤立した海岸部からの避難者輸送や避難生活を想定した食料炊き出し訓練が実施されました。



■大規模災害時等における派遣隊員の留守家族支援

別海駐屯地の隊員が、大規模災害等に係る被災地に派遣された場合、隊員とその家族の負担を軽減するため、留守家族に対する福祉支援を行なう協定を取り交わし、働きやすい環境の醸成に取り組んでいます。

また、留守家族に対する支援は、別海町自衛隊協力会や、自衛隊退職者及び予備役自衛官で構成される隊友会別海支部などの組織においても、安否確認や生活相談に関する支援協定が結ばれています。



4 上位計画等について

4-1 第6次別海町総合計画

第6次別海町総合計画では、「笑顔あふれる豊かさ実感のまち べっかい」をまちづくりの将来像として掲げ、物質的な豊かさだけでなく、協働や共助といった地域のつながりを重視した精神的な豊かさを求めたものとなっています。

中でも、まちづくりのテーマのひとつとして掲げられた「協働と自立」は、地方分権時代における自治体運営について、町民と行政、さらには多様な主体がそれぞれの役割と責任をもって進める協働について強く進め、今後の自立したまちづくりを強く打ち出したものとなっています。

■関連する主要事業(教育・福祉関連)

中央公民館（生涯学習センター）の建て替え検討	町民のニーズに応える（仮称）生涯学習センターの建て替え検討を行います。
学校応援ボランティア	様々な知識や技能を持つ地域の「人材」を登録・リスト化し、ボランティアとして学校に派遣します。
地域子育て支援	子育て支援センターを拠点とし、「出張子育て親子の交流の場」の実施など地域における子育て支援の充実を図ります。 児童館や放課後児童クラブの充実を図ります。
地域福祉の拠点整備	地域福祉の拠点となる施設整備の検討を行います。

■関連する主要事業(協働関連)

別海町自治基本条例に基づく協働のまちづくりの推進	別海町自治基本条例で定める「情報共有」と「町民参加」による積極的な住民参画の機会の拡充に努め、協働のまちづくりを推進します。
べっかい協働のまちづくり推進事業	地域社会や経済に活性化を与え、広く町民参加が見込まれる公益性のあるまちづくり活動を支援します。 また、協働のまちづくり活動が継続して行われ、地域・社会へ貢献する事業、地域の人材育成などについても支援します。
社会資源の創造と活用	各種福祉活動団体などとの懇談会の実施により、地域や住民との連携を図ります。

■関連する主要事業(防災関連)

要援護者支援	災害時の避難支援体制整備のため、要援護者マップを作成します。
災害用備蓄資機材整備事業	災害時の避難生活で必要とする防災用品（食糧・飲料水・毛布）を購入します。
避難施設建設事業	本別海地区に避難所を建設します。 野付半島に災害時の一時避難施設を建設します。
災害時要援護者避難支援プランの推進	災害時要援護者避難支援プランを活用し、横断的な避難支援体制を整備し運用を推進します。
個人住宅耐震改修の推進	町民の安全・安心を確保し、地震発生時の住宅の倒壊などによる被害を軽減するため、耐震改修費用の一部を補助し、既存住宅の耐震改修の推進を図ります。

■関連する主要事業(生活関連)

町民憩いの森公園整備事業	町民の憩いと安らぎ、交流、ふれあい、子どもの楽しい遊び場としての機能を有する公園整備を行います。
町立公園遊器具等補修事業 児童遊園地遊具等整備事業	公園施設・設備の点検及び改修を計画的に行います。

■関連する主要事業(市街地整備関連)

土地利用計画の策定	本町の土地利用に関する総合指針として、住民参画のもと、土地利用の方向性（ビジョン）を示した土地利用計画の策定に向けて取り組みを進めます。
景観計画の策定	景観に配慮したまちづくりを進めるため、町民意識の高揚を図りながら土地利用計画などとリンクした景観計画の策定を進めます。
別海町市街地活性化計画の策定	市街地の空き店舗や未利用地の総合的な利用計画を策定し、市街地の活性化に取り組みます。
道路整備事業	町道の整備を計画的・効率的に進めるための道路整備計画に基づき取り組みを進めます。
町道等維持補修事業	道路・橋梁・排水などの維持補修を行い、安全で快適な道づくりを進めます。
別海町振興奨励防犯灯整備事業	各町内会で行う防犯灯（省エネ防犯灯を含む）の設置や電気料などの維持費に対し補助を行います。

■関連する主要事業(商工業関連)

滞在型・通年型観光推進の取り組み	本町の「食のブランド」を向上させ、都市との「人・モノ・情報」交流の活性化を図り、通年を通して別海町の食と観光PRを実施します。 また、観光客の集客やまちのPRに取り組む事業に対して支援します。
起業家支援事業	新たな創業や新分野に進出する事業者、古くなった店舗の改修及び空き店舗への入居によって店舗の魅力づくりを図る事業者に対して開業経費の一部を支援し、町内での起業と雇用を促進します。
にぎわい商店街創造事業	商店街への誘客、販売促進、イメージアップ等商店街の活性化を図る団体等に対し経費の一部を助成します。

4-2 別海町市街地活性化計画(別海地区)

別海町市街地活性化計画(以下、活性化計画と表記。)では、「人がにぎわい」「憩い」「集う」別海町の中心市街地として、別海地区に新たな都市機能の集積を促し、町内における旗艦機能を高め、活性化するべく3つの基本方針と目標を掲げています。

(方針1) 豊かな地域生活の持続

郊外への宅地進出や空洞化する市街地内の対策として、まちなか居住を勧め、コンパクトな生活圏を設定することで、持続可能な生活と地域社会の維持に取り組みます。

【想定される事業】

町有地の宅地化、省エネ防犯灯整備、防災施設整備 等

(方針2) 地域活動の主役を作る

自分の住む町について考え、より良くするための町民活動を支援することで、長年に渡って暮らす上で重要な地域活動や社会教育の推進、環境整備に取り組みます。

【想定される事業】

社会教育の推進、学習機会の創出、団体活動支援、活動拠点の確保 等

(方針3) 魅力ある商業地域と環境の創出

商工業者が集まり、主要道路に面した町内外の来街者の通過点として重要な位置にある旧別海駅前周辺の再興を促し、地域内再投資を主体とした経済活動を進めます。

【想定される事業】

中小企業等支援、まちづくり団体の推奨、適地適業の推進、サービス能力向上等

〈別海地区活性化の基本方針〉

方針1 豊かな地域生活の持続

方針2 地域活動の主役をつくる

方針3 魅力ある商業地域と環境の創出

〈別海地区活性化の目標〉

■目標Ⅰ

定住を促進する

■目標Ⅱ

来街者を増やす

■目標Ⅲ

事業具体化への町民参加

■目標Ⅰ 定住を促進する

- ・別海地区郊外への宅地進出を抑制するため、市街地部における宅地の分譲や空き家対策など定住促進に向け、良質な住環境と生活を支える官民の取り組みを充実させることで、地域コミュニティと街のにぎわいを担う人口の回復を図ります。
- ・町民の移動手段に合わせて、地区内外の移動や移動先での対応がスムーズになるよう都市機能を集積させたコンパクトなまちづくりを行ないます。
- ・大規模災害に備え、避難場所となる施設や非常時の物流拠点を整備し、域内における町民生活の安全を確保します。

■目標Ⅱ 来街者を増やす

- ・空洞化する重点地区の再構築を図ることで、町民生活の利便性を向上させ、来街者を増やすことで、住民の持続的な地域での生活を守り、地域内再投資を主体とした経済活動を進めます。
- ・北海道らしい豊かな自然と景観の維持に取り組むなど北海道ブランドを守るとともに、再生可能エネルギー事業など他の自治体が「マネ」することができない地域力を創造します。

■目標Ⅲ 事業具体化への町民参加

- ・今後も町民参加機会を用いた社会資本等の整備は、近年欠かすことのできない視点であり、今後のまちづくりにおける町民活動の高まりに対する布石としても重要です。

なお、活性化計画の策定にあたっては、より多くの町民が「まちづくり」に触れることで、行政と課題を共有化するとともに、計画における合意形成と今後の町民活動の広がりを目指し、町民参加による意見聴取機会を行ないました。

■市街地活性化計画における町民参加機会

別海町市街地活性化計画 別海地区(原案)へのパブリックコメント

公開日程	平成26年2月5日(水)から3月6日(木)の間(30日間)
閲覧場所	別海町ホームページ及び町内公共用施設11箇所 周知状況:別海町ホームページ及び広報べつかい
意見数	2名5件
【意見概要】 公民館の設置場所や高齢者の重点地区集住などの市街地活性化策。また、野付半島・尾岱沼など海岸地区の観光プログラムや移住定住策などの交流人口増加策について、具体的な提案がされました。	

児童・生徒対象「1日町長 ぼくの、わたしのまちづくり学習会」

実施日時	平成26年2月15日(土) 午後1時から午後4時30分
概要	町長講話、委嘱状交付式、記念撮影、グループワーク
参加者数	20名(小学生14名、中学生5名、高校生1名)
講師	水沼町長、北海道地域づくりアドバイザー 神長 敬 氏
【成果物等】 現状の課題解決を想定したまちづくり物語を作成。参加者の多くは、高齢化問題や災害への備え、持続可能な地域社会の形成など将来的な課題を選択し、課題の顕在化に備えた中長期的な計画による対策が必要であるなどの提案がされました。	

一般町民対象「まちを知って、まちをつくる 別海“町”学習会」

実施日時	平成26年2月24日(月)、4月11日(金)、4月25日(月)
概要	計画説明、講演、グループワーク
参加者数	延べ88名(一般町民)
講師	北海道地域づくりアドバイザー 神長 敬 氏
【成果】 別海市街地の現状と課題、他自治体におけるまちづくり事例について知ることで、町民ニーズの顕在化と目指すべき姿について検討を実施。具体的な例として、町民活動と公民館施設機能の関連性について検討・提案がなされ、まちづくり活動の拠点として(仮称)生涯学習センターが果たす役割への期待が伺える結果になりました。	

まちづくり活動報告会(べつかいまちづくりフォーラム)

実施日時	平成26年2月8日(土) 午後1時から午後4時30分まで
概 要	講演、パネルディスカッション(事例報告)、公募型補助金相談会
参加者数	55名(一般町民の他、公募型補助金活用団体、各地区生涯学習推進協議会、ボランティア活動団体、地縁団体、自治推進委員、教育関係者)
講 師	札幌国際大学 教授 吉岡 宏高 氏
【成 果】 講演では、他の自治体における住民の取り組みとその必要性について学び、現状の課題解決への手法について知る機会としました。また、町内事例の報告では、会員数の減少や高齢化、活動に係る施設維持などの資金捻出の問題など、まちづくり活動を行う団体からその現実と目指すべき姿について報告がされました。	

別海町商工会会員向け説明会

実施日時	1)平成26年6月26日(木) 午後2時30分から午後3時30分まで 2)平成26年6月30日(月) 午後7時30分から午後9時まで
概 要	計画説明、質疑応答
参加者数	延べ38名
【質疑内容】 道路拡幅や空洞化対策等の具体策の実施に加え、市街地活性化策における専門所管部署の創設要望がありました。また、商工会自身で現在検討している市街地活性化策の実現に向けた共同体制の提案がされました。	

4-3 別海町防災計画

本町の防災に係る計画は、別海町地域防災計画(平成26年4月策定 以下、防災計画と表記。)として示され、その他に別海町地域防災計画資料編や別海町防災避難マップなどが附帯しています。

本構想の対象地区である別海地区に係る防災関連機能としては、災害対策本部が設置される別海町役場庁舎、町民体育館や各校種学校が避難所としても設定されているほか、中央公民館、給食センターが炊き出し施設として指定されています。

なお、個々の災害種別に対して設置が必要な緊急避難場所としては、海岸部から遠く離れ津波の到達も想定されないことから特段に設けられていません。

■地域別防災避難施設一覧

地区名	施設名	収容人数	地区名	施設名	収容人数
別海	別海町役場庁舎 (災害対策本部)	680	尾岱沼	尾岱沼地域センター	730
	別海町体育館	1,480		別海町東公民館	660
	別海町交流館	600		野付中学校	410
	北海道別海高等学校	4,550		野付小学校	380
	別海中央中学校	1,390	本別海	本別海地域防災センター	287
	別海中央小学校	2,820		別海中学校	180
中西別	中西別ふれあいセンター	380		別海小学校	160
	中西別中学校	1,310	西春別 駅前	西春別ふれあいセンター	660
	中西別小学校	220		上西春別中学校	1,240
中春別	中春別ふれあいセンター	350		上西春別小学校	2,330
	中春別中学校	1,120		西春別体育館	730
	中春別小学校	380	西春別	西春別地域センター	470
上春別	上春別地域センター	490		西春別中学校	410
	上春別中学校	240		西春別小学校	380
	上春別小学校	410	上風連	上風連地域センター	460
走古丹	走古丹地域防災センター	490		上風連中学校	400
床丹	床丹地域防災センター	200		上風連小学校	220

また、別海町耐震改修促進計画では、災害時に学校や公民館、地域会館などを避難場所として活用することを想定し、建築物の耐震改修の促進に関する法律に掲げられた規模や用途に応じ、平成27年度までに対象施設の9割を耐震化することを目指しており、平成27年2月現在、改築や耐震改修の予定も含め、およそ9割の避難収容施設が耐震化される見通しとなっています。

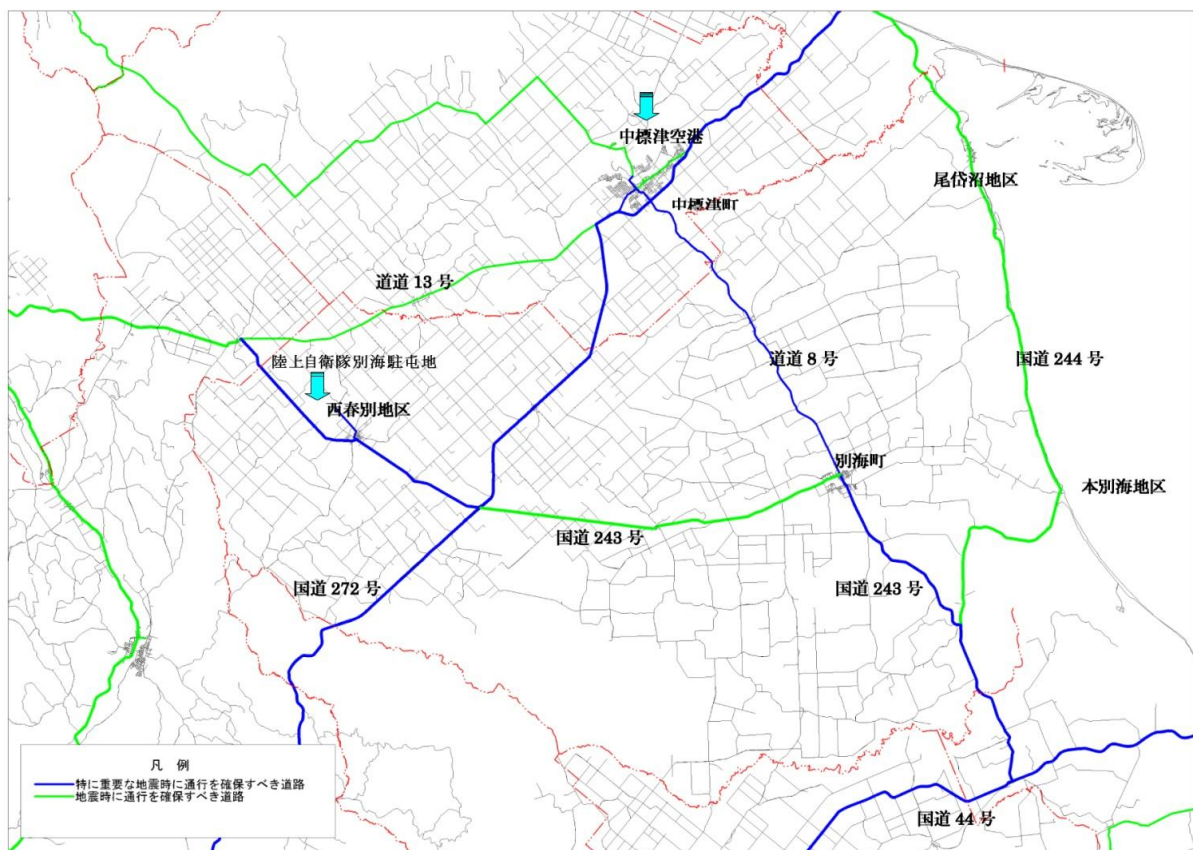
一方で、町内でもっとも多い11,520人の避難者収容を想定している別海地区の炊き出し施設である学校給食センター、中央公民館の2施設は建設から45年以上が経過し、既に

耐用年数も過ぎていることから、利用状況にそぐわない点や、災害時に十分その能力を発揮することが難しいことが想定されることから、早急な改築による対応が必要な状況にあります。

また、この他にも別海地区には、昭和46年、或いは昭和56年以前の建築基準法改正以前に建てられた建築物の中で、既に公共用施設としての当初の役目を終え、一般行政財産として貸し付けている別海町社会福祉協議会施設や地域活動団体施設に転用されているものも多くあります。

その他の計画としては、北海道地域防災計画において地震発生時に確保すべき道路として、西春別駅前にある陸上自衛隊別海駐屯地を中心として、隣接する中標津町を含め位置づけ、災害時における救護や復旧における交通網を確保するよう取り組まれています。

■北海道地域防災計画における震災時に交通を確保すべき道路



5 矢臼別演習場周辺まちづくり構想(基本構想)策定の経緯

5-1 まちづくり構想策定の進め方

本構想の策定については、別海町自治基本条例及び別海町協働基本指針に基づき、町民から意見を聴取する矢臼別演習場周辺まちづくり構想住民懇話会を設置したほか、アンケート調査やまちづくり住民大会を実施するなどし、町民意見の収集と情報の共有を行いました。

なお、町民参加機会の内容等の詳細については、別紙「矢臼別演習場周辺まちづくり構想(基本構想)資料編」に掲載しています。

■町民参加機会について

題 名	対 象	回数等
町民アンケート	18歳以上の町民から2,500名を無作為抽出	11月から12月 ・回答数 868通 ・回答率 34.72%
まちづくり構想 住民懇話会	町内の関係団体等の代表者 アンケート回答者の町民	12月から1月 ・3回を実施
まちづくり住民大会	全町民	2月12日 ・参加者数 36人
パブリックコメント (町民意見の公募)	全町民	2月12日から3月 14日 ・意見者数 1団体2個人 ・意見数 14件

また、役場内に横断的な検討体制として、各部署からの代表者等で構成する矢臼別演習場周辺まちづくり構想検討委員会を設置し、全体的な調整や整合性の確保に努め、まちづくり構想を策定しました。

■別海町役場内の検討組織について

組織名	構成メンバー	回数等
まちづくり構想 検討委員会	副町長、教育長、総務部長、福祉部長、産業振興部長、建設水道部長、教育部長、会計管理者、病院事務長、農業委員会事務局長、議会事務局長及び監査委員事務局長、別海消防署長等	7月から3月 5回

その他の組織体制としては、防災に関係する機関や団体等との共通の認識に基づき、今後の本構想の策定が進められるよう、次の会議を開催しました。

■防災に係る機関等による会議について

題名	構成メンバー	回数等
防災関係機関の会議	別海町、消防署、消防団、自衛隊、北海道開発局、北海道、北海道警察等	3月9日 1回

5-2 まちづくり構想住民懇話会の実施状況

町内の関係団体からの代表者等で構成する住民懇話会を組織し、現在の別海町の課題を共有しながら、まちづくり構想における意見を聴取しました。

また、第2回目からは、まちづくり構想アンケート調査において懇話会委員への参加に同意していただいた方による委員5名を加えた体制となっています。

■住民懇話会の実施概要

	開催日	主な内容	開催の様子
第1回	平成27年 12月21日	・構想の概要説明 ・アンケート結果（中間報告） ・こうきたい別海町の将来像（意見交換）	
アンケート委員説明会	平成28年 1月14日	・第1回住民懇話会の状況報告 ・構想の概要説明 ・アンケート結果（中間報告）	
第2回	平成28年 1月28日	・第1回住民懇話会の振り返り ・アンケート結果の報告 ・構想で大切にしたいこと（ワークショップ）	
第3回	平成28年 2月4日	・第2回住民懇話会の振り返り ・構想（素案） ・構想を考えよう（ワークショップ）	

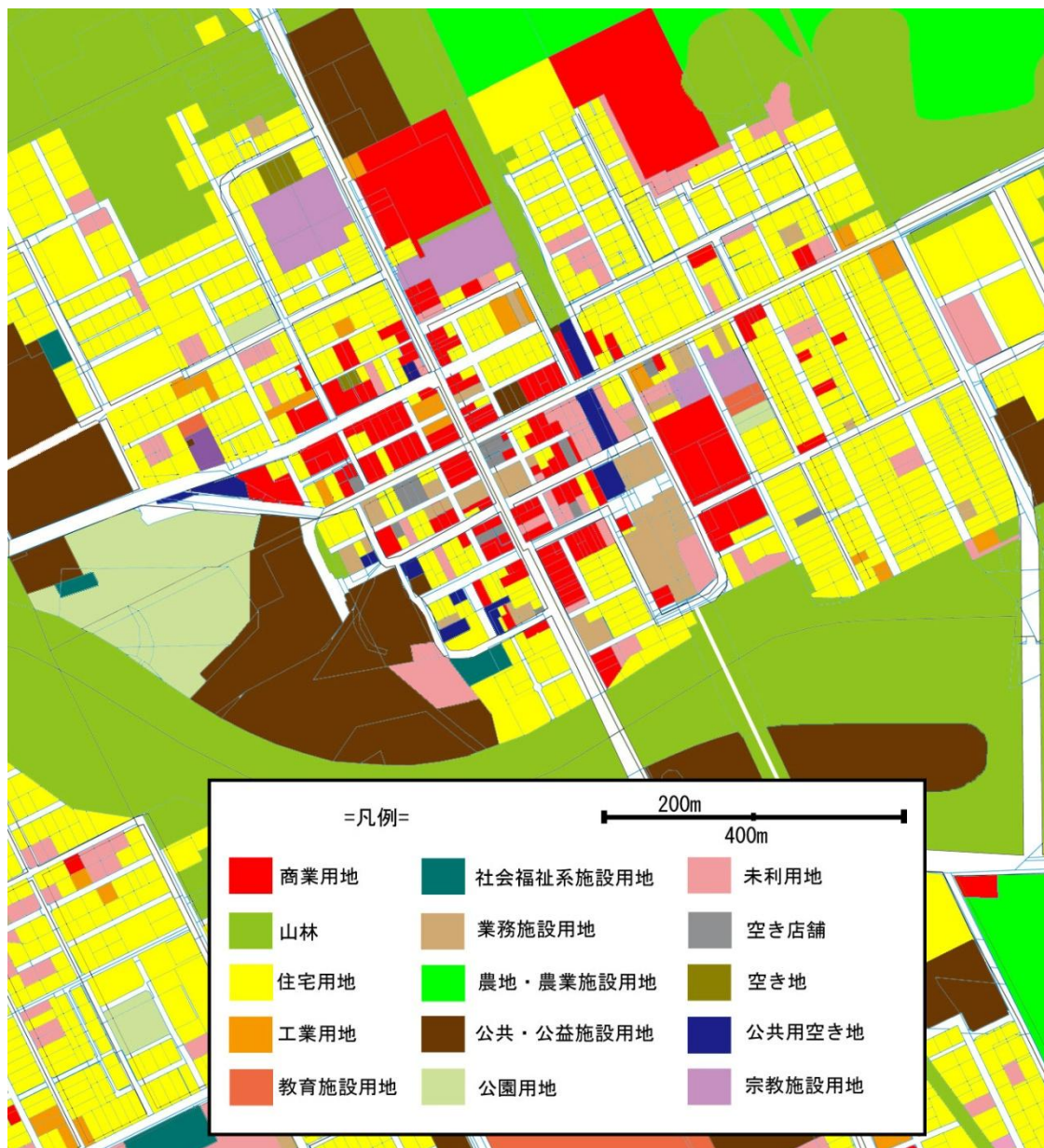
6 矢臼別演習場周辺まちづくり構想対象エリアについて

6-1 まちづくり構想対象エリアの現状

別海地区は、平成元年に廃止となったＪＲ北海道標津線の旧別海駅周辺を中心に小売業や飲食業などが集積しており、一般的に都市のにぎわいを創出する商業者が集まった地域になっています。

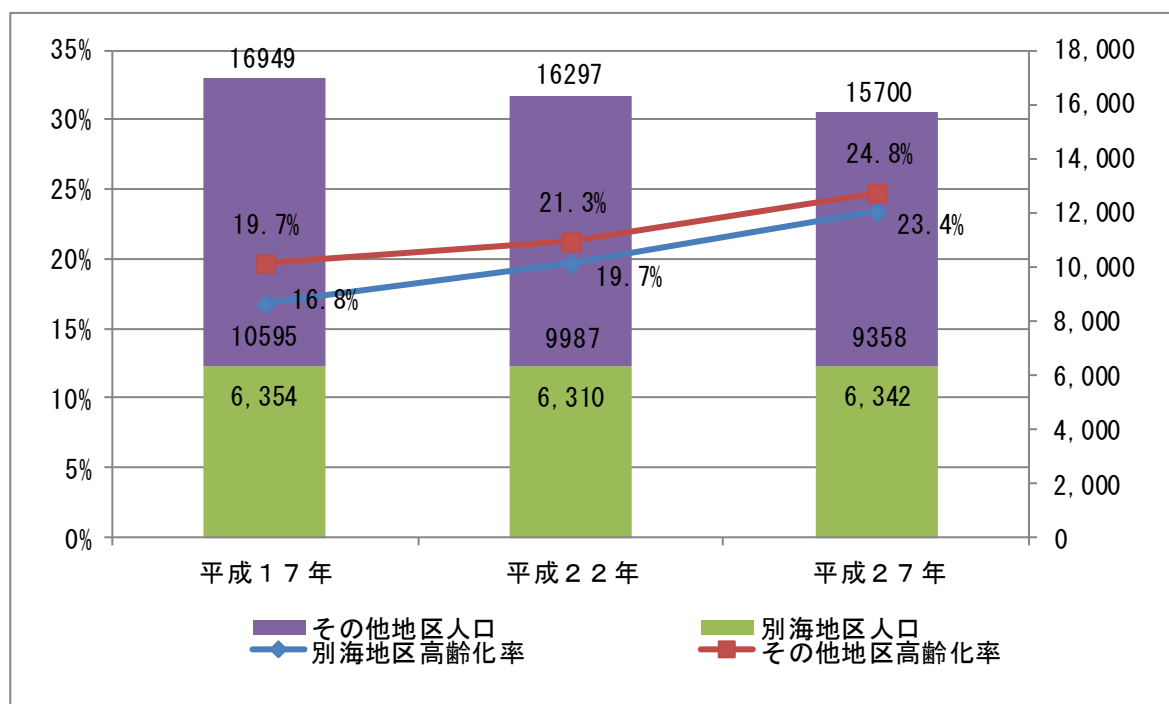
特に別海地区は、人口減少が続く本町の中でも、唯一維持・増加傾向にあり、平成２７年度現在において、町内人口の約４割が居住する本町の中心的な市街地になっています。

■旧別海駅前周辺の土地利用状況



※平成２５年８月末時点

■別海地区とその他の地区との人口比較

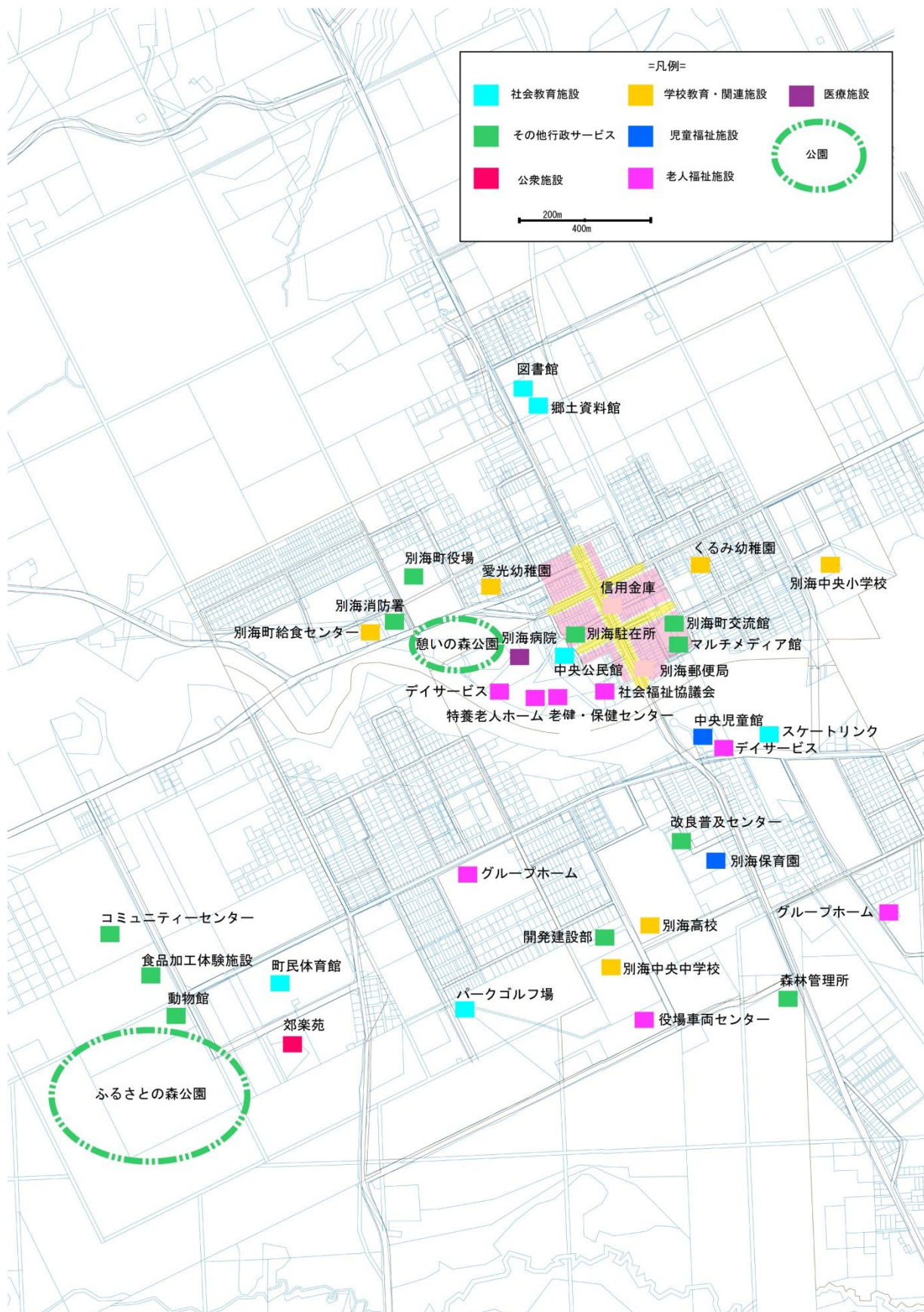


また、別海地区は、町内の中心的な市街地として、多くの公共施設が整備されており、全町的な内容が実施されることを前提とした施設が多く集積しています。

■別海地区における全町的なイベント

月	イベント	場所	主催・主管
7月	別海町商工青年夏まつり	別海町交流館 ふらと前広場	別海町商工会
8月	各種ビアパーティー	別海町交流館 ふらと前広場	商工業者団体
	福祉まつり	別海町交流館 ふらと前広場	別海町社会福祉協議会
9月	別海マルシェ	別海町交流館	別海町観光協会
	サンデーブランチャマーケット	ふらと前広場	
	別海町産業祭	農村広場	別海町産業祭実行委員会
10月	別海町パイロットマラソン大会	別海町 陸上競技場	別海町パイロットマラソン実行委員会
11月	別海町文化祭	中央公民館	別海町
2月	ふゆとぴあ in BETSUKAI	農村広場	ふゆとぴあ in BETSUKAI 実行委員会

■別海地区における公共公益施設等の分布



※平成25年8月末時点

6-2 構想対象エリアの課題

構想対象エリアである別海地区の課題については、平成26年度に策定した「別海町市街地活性化計画(別海地区)」において整理した課題を含め、住民懇話会等での検討を行い、次の内容としてまとめました。

①拡大する住宅域の位置づけ
・別海地区は、人口の減少が続く本町の中でも唯一の増加傾向にあり、住宅域が拡大しています。今後のまちづくりにおいては、市街地をどのようにコンパクト化していくかが課題となっています。
②市街地のコンパクト化
・高齢化が進み、車社会に対応できない町民や市街地における生活を望む町民が増えていくことが予想されるため、町民が自立した生活を営めるよう、旧別海駅前に隣接した地域や、別海地区市街地でどのように集約化していくかが課題となっています。
③防衛関連施設について
・矢臼別演習場に係る騒音や振動などの障害、安全性の確保が課題となっている。 ・災害時における救助や避難に係る体制の整備が課題となっています。 ・自衛隊員等が持つ能力を生かした交流や学習機会を通じた町民理解と、まちづくりの担い手となれる環境の醸成が課題となっています。
④災害時の避難場所の確保
・大規模災害時の避難場所や他の地域からの2次避難受け入れ、物資の供給拠点の整備等が課題となっています。
⑤消費購買力の域外流出、中小小売業等の衰退と商業の活性化
・近隣自治体に建設された大型店舗への消費購買力の域外流出と中小小売業等の衰退が著しく、商店街の活性化が課題となっています。
⑥交流拠点、防災拠点となる施設の整備
・中央公民館の老朽化による建て替えについて、新たな交流拠点、防災機能拡充のため、(仮称)生涯学習センターの整備が求められています。
⑦空き店舗や未利用地の有効活用
・空き店舗や未利用地の増加にどのように対処していくかが課題となっています。 ・旧別海病院跡地や老朽化した公共施設の建て替え計画などに加え、道東あさひ農業協同組合事務所の移転や、Aコープ店舗の閉鎖に伴う未利用地などをどのように活用していくかが課題となっています。
⑧来街者の増加、回遊性や滞在時間の向上
・案内表示や情報掲示板、パンフレットなど来街者に対するサービスが不足しており、来街者が町内各所に円滑に移動することが困難な状況にあります。

7 まちづくり構想(基本構想)について

7-1 まちづくり構想における視点

まちづくり構想の基本理念や方針を検討する上で、密接な関係にある第6次別海町総合計画、別海町地域防災計画、別海町市街地活性化計画(別海地区)、(仮称)生涯学習センター建設基本構想(答申)などの関連計画を踏まえるとともに、住民懇話会やアンケート調査の結果などから、基本構想策定の視点として次のとおり整理しました。

■第6次別海町総合計画(平成21年4月から平成31年3月)

- ・ひとが輝くために:子どもがすこやかに育つ環境づくり
- ・まちが輝くために:別海町の魅力を知ってもらい、来訪者を増加
別海町の産品に触れてもらい、生産者と消費者を結ぶ
- ・みんなのつながりでつくる地域のために:地域の課題を町民とともに解決

■別海町地域防災計画(平成26年4月)

防災計画から関連する内容

- ・災害発生した時の給水、防疫、食料供給等災害応急対策に関すること
- ・防災思想の普及に関すること
- ・防災体制の確立

■別海町市街地活性化計画 別海地区(平成26年11月)

- ・拡大する住宅域の位置づけ
- ・市街地のコンパクト化
- ・消費購買力の域外流出、中小小売業等の衰退と商業の活性化
- ・空き店舗や未利用地の有効活用
- ・来街者の増加、回遊性や滞在時間の向上
- ・交流拠点、防災拠点となる施設の整備
- ・災害時の避難場所の確保

■(仮称)別海町生涯学習センター建設基本構想(平成26年4月答申)

「つどい、ふれあい、つながり、まなびあい～

人づくりまちづくりの交流連携拠点」

- ・文化ホール、公民館(学習)、共用部(ロビー)、子育て支援、防災機能、図書館機能、社会福祉機能、観光案内機能などの多機能複合化の検討

■住民懇話会及びアンケート調査の結果

- ・高齢者を地域で支え、暮らし続けられる地域に
- ・まちへの愛着心が高まれば外からでも別海を応援
- ・コミュニティの向上と防災機能、防災意識の向上は密接な関係
- ・子どもから高齢者までが集えるつながりをつくる多世代交流の場が必要
- ・新たな雇用の場、多様な就業形態の創造
- ・公民館機能の充実
- ・地元のを地元で買える、一次産業を支える地域に
- ・地元産品に対しての自家消費や食育の視点

基本構想 の視点

輝きつな
がる視点

つどい支
え合う関
係づくり
の視点

食料供給
等の災害
対応
の視点

交流・防
災の視点

多機能
化・多世
代交流の
視点

商業の
活性化
の視点

新たな雇
用の創出
の視点

ホール機
能充実の
視点

市街地の
コンパク
ト化
の視点

7-2 まちづくり構想における基本理念等

(1) 基本理念

構想の基本理念として、前項で整理した視点を包含するとともに、目指すべきまちの将来像を表す言葉として次のように定めます。

～つながり、ささえあい、はぐくむ、創造交流のまちづくり～
町民が安心安全に暮らし続けるために、多世代がつながり支え合う関係をはぐくみ、多世代・複合交流拠点を創造します。

(2) 基本方針

各視点を踏まえながら、まちづくり構想の実現に向けて7つの基本方針を次のとおり定めます。

輝きつな
がる視点

つどい支
え合う関
係づく
りの視点

基本方針 1

町民がつながり地域を支える関係づくりを目指します。

食料供給等
の災害対応
の視点

交流・防災の
視点

基本方針 2

災害時の対応力強化に資する体制の整備を町民活動と共に図ります。

多機能化・多
世代交流の
視点

基本方針 3

子どもから高齢者まで多世代が交流できる場づくりを目指します。

商業の活性
化の視点

基本方針 4

地域のを地域で消費でき、町民の買い物を支える場を創造します。

新たな雇用
の創出の
視点

基本方針 5

別海で暮らし続けるための雇用環境の改善を図ります。

ホール機能
充実の視点

基本方針 6

町民が集い、憩うための拠点機能（公民館機能）の充実を図ります。

市街地の
コンパクト
化の視点

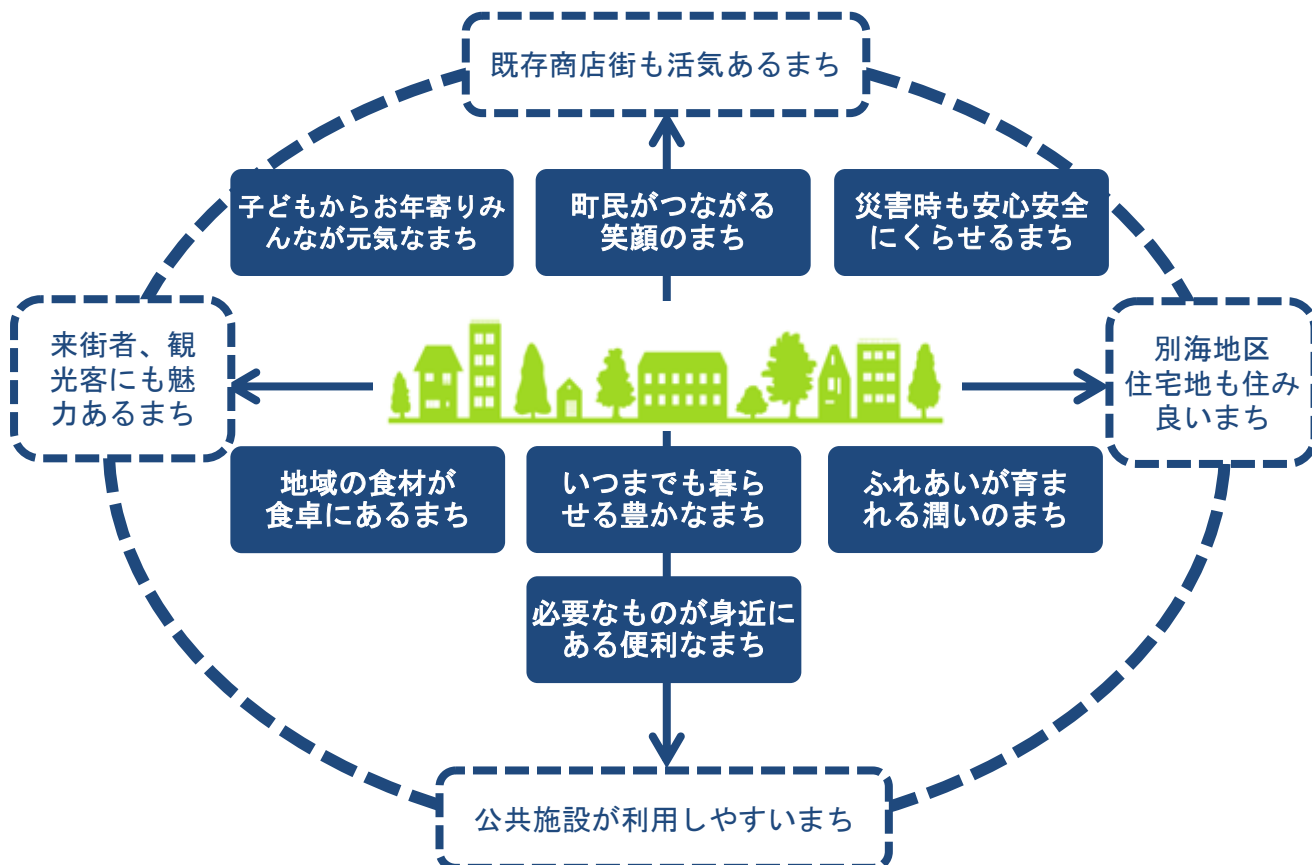
基本方針 7

市街地のコンパクト化を目指した、効率化と複合化の公共機能整備を進めます。

(3) 目指すべきまちの姿

7つの基本方針を具現化する手だてと目指すべきまちの姿を次のように定めます。

基本方針	具現化する手だて	目指すべきまちの姿
基本方針1：町民がつながり地域を支える関係づくりを目指します。	集い、つながる交流機能の充実	町民がつながる笑顔のまち
基本方針2：災害時の対応力強化に資する体制の整備を町民活動と共に図ります。	災害時の食料供給、備蓄機能の整備	災害時も安心安全に暮らせるまち
基本方針3：子どもから高齢者まで多世代が交流できる場づくりを目指します。	子育て、高齢者を支える環境整備	子どもからお年寄りみんなが元気なまち
基本方針4：地域のものを地域で消費し、町民の買い物を支える場を創造します。	地域を支える商業空間の充実	地域の食材が食卓にあるまち
基本方針5：別海でくらし続けるための雇用環境の改善を図ります。	雇用環境の改善と場の創造	いつまでも暮らせる豊かなまち
基本方針6：町民が集い、憩うための拠点機能（公民館機能）の充実を図ります。	利便性向上を図る交流拠点の充実	ふれあいが育まれる潤いのまち
基本方針7：市街地のコンパクト化と効率化、複合化の拠点整備を目指します。	支え合う関係をつくる複合機能の整備	必要なものが身近にある便利なまち



(4) 基本方針を具現化する手だてのイメージ

集い、つながる 交流機能の充実

- 機能及び空間イメージ
 - ・子どもや高齢者、地域の人同士、来町者など様々な人々が集い、交流できる機能。
 - ・子育て世代と高齢者など世代間の交流が生まれる仕組みと空間。
 - ・つながりをつくるコミュニティ機能向上の支援充実。



災害時の食料供給 備蓄機能の整備

- 機能及び空間イメージ
 - ・災害時の食料供給のための炊き出し拠点。また、それに必要な物資の備蓄ができる設備や倉庫などの防災拠点機能。
 - ・備蓄物を定期的に更新し、活用する仕組みづくり。



子育て、高齢者を 支える環境整備

- 機能及び空間イメージ
 - ・高齢者が集うサロンや、子育てを支援する相談、遊戯スペースで、高齢者や子どもの交流がうまれる機能・空間。
 - ・ハード、ソフト面の両方でのサポート体制の充実。



地域を支える 商業空間の充実

■機能及び空間イメージ

- ・地元でとれる農水産品が購入でき、地域住民の買い物を支え、観光客も立ち寄る機能。
- ・地元ならではの調理方法を教えてもらえる仕組み。
- ・地元食材を活用した食育を通じた地産地消の推進。



雇用環境の改善 と場の創造

■機能及び空間イメージ

- ・新たな雇用が生まれるチャレンジオフィス、チャレンジショップ機能。
- ・町外に進学した若者が戻って来られる雇用環境の創出。
- ・高齢者のビジネスチャンスの創出、シルバー人材の活用。



利便性向上を 図る交流拠点の 充実

■機能及び空間イメージ

- ・老朽化した中央公民館の機能を更新し、利便性の向上を図る公民館機能。
- ・室内環境・音響設備の充実。
- ・ホールや会議室など町民が集い、憩う空間が複合化した交流拠点。
- ・各地区の公民館などと役割、機能の分担。



支え合う関係をつくる複合機能 の整備

■機能及び空間イメージ

- ・様々な機能を複合化することで、人と出会う機会を増やし、支え合うつながりを構築する機能。
- ・年間を通じて集まりやすい多目的利用のできる場所。
- ・コンパクトな市街地形成につながる拠点空間の設定



矢臼別演習場周辺まちづくり構想
(基本構想)

発行日 平成 28 年 3 月 22 日

発行者 北海道野付郡別海町常盤町 280 番地
別海町

印 刷 株式会社 KITABA